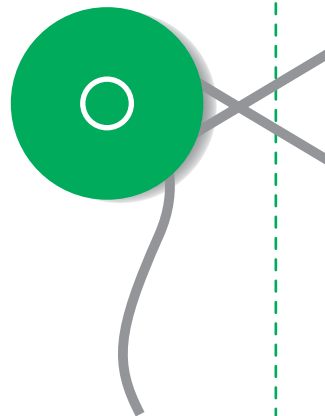



ライオンCSR報告書 2016



「今日を愛する。」ことは、
一生を大切にすること。



01	ライオンについて
04	トップメッセージ
06	社是・経営理念・ライオン企業行動憲章

07	 ライオンのCSR
08	ライオンの社会・環境貢献活動の全体像
09	コーポレートメッセージに込めた想い
10	ライオングループの事業活動の歴史
12	ライオングループのCSR管理体制の構築
14	CSR重要課題に関する中期経営計画における目標と2015年実績

18	2015年ハイライト 01 ライオングループの 国内外での口腔保健啓発活動
----	---

24	2015年ハイライト 02 ハブラシリサイクル プログラムの推進 (環境意識啓発活動)
----	---

26	 組織統治
----	---


29	 人権
----	---

30	 労働慣行
----	---

34	 環境
----	---

40	 公正な事業慣行
----	--

42	 消費者課題
----	--

47	 コミュニティへの参画 および発展
----	---

50	第三者所見
----	-------

51	ライオンから／編集後記
----	-------------

編集方針



当社は、CSR報告書を「CSRへの取り組みを開示し、ステークホルダーの声を取り入れながら、活動をさらに進めていくための重要なツール」と位置づけています。

[CSR報告書2016編集方針]

- 2011年から社会的責任に関する国際的な規格であるISO26000に沿ってCSR活動の体系化を進めており、報告書およびホームページのCSRサイトもそれに合わせた構成にしています。
- 重要なCSR課題と当社の経営計画に合わせた2017年中期目標に対する2015年の進捗を開示しています。
- 特に進捗した活動を「2015年ハイライト」として詳しく掲載し、その活動内容を把握しやすくしています。
- ISO26000の各中核主題別のページの最後に、活動の詳細が掲載されているWebサイトのURLを記載しています。
- 当社の主なWebページのURLを二次元コード化(スマートフォン対応サイト)し、アクセスしやすくしています。
- 読みやすさに配慮して開発された「つたわるフォント」を採用しています。
- 客観的な評価を示すため、外部有識者から第三者所見を受け、掲載しています。
- GRI サステナビリティ・レポーティング・ガイドラインによる標準開示項目の情報を記載しています。

[参考にしたガイドライン]

- 環境省「環境報告ガイドライン(2012年版)」
- グローバル・レポーティング・イニシアティブ「G4 サステナビリティ・レポーティング・ガイドライン」
- 日本規格協会「ISO26000:2010社会的責任に関する手引」

[各種ガイドライン 対照表]

URL <http://www.lion.co.jp/ja/csr/guideline/>

[対象組織]

- ライオン株式会社および国内のすべての連結子会社を基本としています。p14-17のCSR中期目標および実績は、海外グループ会社も含まれます。
*掲載する活動やデータについて対象範囲が異なる場合は、個々にその旨を明記しています。

[対象期間]

- 2015年1月1日～ 2015年12月31日
(ただし、活動内容は一部2016年の取り組みを含んでいます。)

ライオンについて



会社概要

商 号	ライオン株式会社 (Lion Corporation)
本 社 所 在 地	〒130-8644 東京都墨田区本所一丁目3番7号
創 業	1891年(明治24年)10月30日
資 本 金	344億3,372万円(2015年12月31日現在)
代 表 者	代表取締役社長 濱 逸夫
従 業 員 数	連結: 6,816名 単独: 2,467名(2015年12月31日現在)
売 上 高	連結: 3,786億円 単独: 2,538億円(2015年12月期)
工 場	千葉工場(市原市)、小田原工場(小田原市)、 大阪工場(堺市)、明石工場(明石市)
研 究 所	平井(江戸川区)、小田原(小田原市)
オ フ ィ ス	札幌、仙台、東京、名古屋、大阪、福岡

[グループ・関連会社一覧]

URL <http://www.lion.co.jp/ja/company/group/>

セグメント別売上高

一般用消費財事業 2,734.8億円

- ・オーラルケア分野 594.1億円
- ・ビューティケア分野 198.8億円
- ・ファブリックケア分野 779.8億円
- ・リビングケア分野 209.7億円
- ・薬品分野 387.5億円
- ・その他の分野 564.7億円

産業用品事業 561.0億円

海外事業 1020.7億円

その他 291.6億円

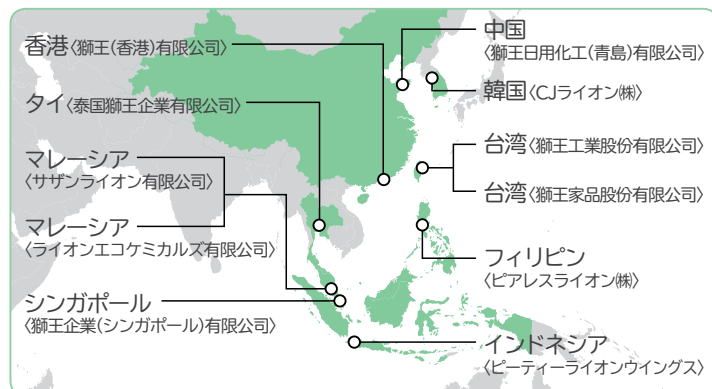
調整額* ▲821.7億円

連結売上高 3786.5億円

*各セグメント内、セグメント間の売上高

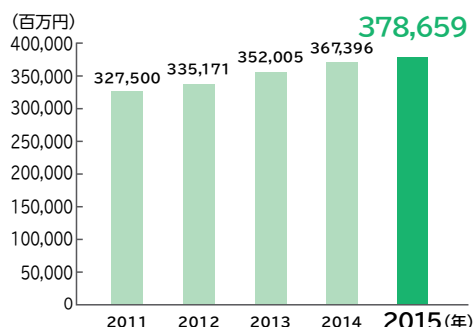
海外グループ会社の所在地

海外売上高前年比 115% 海外売上高構成比(連結) 25%

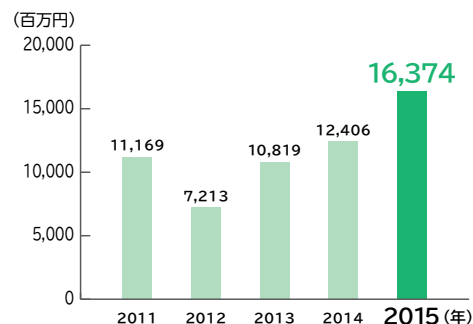


業績推移(連結)

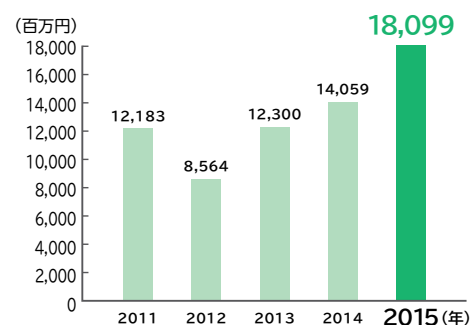
売上高



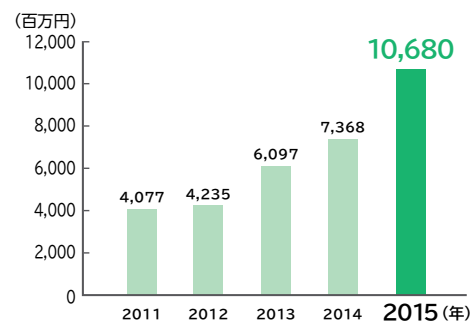
営業利益



経常利益



当期純利益



[IR資料室]

URL <http://www.lion.co.jp/ja/ir/library/>



主な事業内容

〔一般消費財事業商品一覧〕

URL <http://www.lion.co.jp/ja/products/>



オーラルケア事業

〔主要製品分野〕 ハミガキ、ハブラシ、デンタルリンス、デンタル用品など

みなさまの健康な毎日を支える、一步進んだオーラルケアを実現します。



ビューティケア事業

〔主要製品分野〕 シャンプー、リンス、育毛剤、ハンドソープ、ボディソープ、男性用化粧品、制汗剤など

ヘアケア&スキンケアで、心身の健康と快適をお届けします。



ファブリックケア事業

〔主要製品分野〕 衣料用洗剤、柔軟仕上げ剤、漂白剤、静電気防止剤など

いつも清潔な衣服を気持ちよく着ていただくために、安心して使える製品をお届けします。



リビングケア事業

〔主要製品分野〕 台所用洗剤、住居用洗剤、調理関連品など

お客様の清潔で快適な食・住生活に役立つ製品を提供します。





薬品事業

【主要製品分野】 解熱鎮痛薬、止瀉薬、胃腸薬、目薬、ドリンク剤、殺虫剤など

高まるセルフメディケーションのニーズに豊富なブランドでお応えします。



ウェルネス・ダイレクト事業

【主要製品分野】 健康食品、機能性食品、ヘアケア製品など

お客様の様々な健康・美容ニーズに対応した通販専用製品をご提供いたします。



特販事業

【主要製品分野】 ギフト、ノベルティなど

お客様へ各種贈答（ギフト）商品や、お得意先様への特別注文品をご提供いたします。



ペット事業（ライオン商事）

【主要製品分野】 サニタリー用品、オーラルケア、ボディケア、ペットランドリーケア、空間ケアなど

いつも清潔に、ずっと健康に、そして快適に。
人とペットが求める幸せな暮らしを支援します。





代表取締役 取締役社長 執行役員

濱 逸夫



「事業を通じて社会のお役に立つこと」が ライオンのDNA

ライオンのCSRの原点は「事業を通じて社会のお役に立つ」という創業の精神にあります。1891年の創業以来、120年以上にわたって、時代とともに変化する社会課題に対し、応え続けてきました。

経済成長のスピード鈍化、高齢化の進行など、アジアそして日本において、社会環境は加速度を増して大きく変化しています。ライオンは、このような社会の変化の中で課題を的確にとらえ、事業を通じ、「変革を超える変革」を創り出し、解決に向けた取り組みを進めてまいります。それこそがライオンのDNAであると考えているからです。

ライオンは、経営ビジョン「Vision2020」において、「くら

しとこころの価値創造企業を目指す」、「環境対応先進企業を目指す」、「挑戦・創造・学習企業を目指す」を掲げ、「愛の精神の実践」の社是のもと、「健康」、「快適」、「環境」の事業領域において、人々の健康寿命を延ばすことや、資源の節約・再利用を進める循環型社会の形成のお役に立つことを目指してまいります。

お客様満足を最優先とする製品開発・サービスの提供に取り組むとともに、環境保全活動の推進やコーポレートガバナンス体制のさらなる充実をはかり、すべてのステークホルダーからの期待に応えられる信頼性の高い企業となるよう、企業価値の一層の向上に努めてまいります。



くらしとこころの価値創造企業を目指して

2015年も「予防歯科*」の啓発に力を入れました。セルフケア用の高機能ハブラシをはじめとするオーラルケア商品の導入や、公益財団法人「ライオン歯科衛生研究所」を通じたライフステージ別の口腔保健活動、予防歯科専門のデンタルクリニック運営を通して、正しいセルフケア、プロフェッショナルケアの啓発を進め、「予防歯科」の認知や意識向上につなげました。

また、2015年4月からスタートした機能性表示食品制度において「ラクトフェリン」が日本で認証（第1号）を取得し、高い機能を伝えやすくなりました。産業用品においても、化学品事業の統合・再編による新会社を設立することで、新しい価値創造のための構造改革を進めています。

海外については、積極的なマーケティング活動、各国における予防歯科や手洗いの啓発活動を進め、「システム」、「KODOMO」、「キレイキレイ」ブランドなどのパーソナルケア分野が大きく成長しました。

今後も製品開発や販売だけでなく、オーラルケアや手洗いの啓発活動を進め、日本をはじめアジアの人々の清潔・健康で快適な生活習慣に貢献するというライオングループとして共通の理念のもと、習慣づくりのお役に立ち続けたいと考えています。

*ムシ歯になってから治療するのではなく、なる前の「予防」を大切に考える方

環境対応先進企業を目指して

ライオンは「低炭素社会」、「循環型社会」、「自然との共生」の実現を目指し、環境目標「Eco Vision 2020」を策定し、CO₂排出量や水使用量の削減など、2020年の目標達成に向けて推進しています。CO₂排出量削減については、COP21での日本の目標より高い目標に取り組んでおり、2015年目標を達成しました。また、商品のライフサイクル視点で独自に設定した「ライオンエコ基準」を満たすエコ商品を拡大し、お客様のエコ生活応援を続けています。水使用量削減については工場排水を再利用する技術開発を進め、2016年以降の大幅削減の目処をつけました。

2015年はアジアで初めて米国テラサイクルジャパン合同会社と提携し、使用済みハブラシを回収して植木鉢やプランターなどにリサイクルするプログラムを開始しました。お客様にとっての身近なリサイクル活動の場を提供することで、地域・社会の環境負荷低減活動に貢献したいと考えています。

今後も、先進的な環境対応技術の開発とステークホルダーの皆様とのコミュニケーションを通じて、サステナブル社会の実現に貢献してまいります。

挑戦・創造・学習 企業を目指して

2015年は、自ら挑戦し新しい価値を生み出す人材を育成するために、マーケティング研修、異業種交流研修を継続実施するとともに、ライオンの未来を直接経営に提案する「Lion Challenge Cup-Innovation」を導入しました。また、現場のベストプラクティスの共有による、組織の学習能力向上を目的とした表彰制度「L-Compass Award」を導入し、現場力の強化を進めました。一方で、育児中の女性や介護をしている従業員の活躍をサポートし、多様な働き方をバックアップする環境づくりを検討、2016年には新たな制度運用を開始しています。

私が全国各事業所で行なっている社長懇談会は2015年も継続し、現場の従業員とのミーティングの中で、経営ビジョンを繰り返し伝え、ビジョン実現に向けた具体策についての議論を続けています。

また、2014年に立ち上げた生活情報サイト「Lidea（リディア）」を通じ、お客様に多くの生活お役立ち情報を発信いたしました。

今後も、従業員一人ひとりが世の中の潮流を先取りし、挑戦によって新たな創造を生み、そこから学習するというサイクルを回すことで「Vision2020」の実現を目指してまいります。

CSR経営を目指して

社会から信頼される企業であり続けるためには、CSRが経営の中に組み込まれていることが必要です。ライオンは社会的責任の国際規格「ISO26000」に示された社会からの要請を理解したうえで、経営課題とすり合わせ、CSRの重要課題を特定しています。現在、進めております経営ビジョン「Vision 2020」V-2期では、海外グループも含めたライオングループ全体で中期目標を設定し、グループとしてのCSRの取り組みを進めております。

ライオンは2009年に、持続可能な成長を実現する世界的な枠組みである「国連グローバル・コンパクト」への支持を表明しました。今後も継続的に支持するとともに、「健康」、「快適」そして「環境」を強く意識したCSR経営に努めてまいります。



社是・経営理念・ライオン企業行動憲章

社 是

わが社は、「愛の精神の実践」を経営の基本とし、
人々の幸福と生活の向上に寄与する。

経 営 理 念

- 1 われわれは、人の力、技術の力、マーケティングの力を結集して、
日々の暮らしに役立つ優良製品を提供する。
- 2 われわれは、創業以来の伝統である
「挑戦と創造の心」を大切に、事業の持続的発展に努める。
- 3 われわれは、企業を支えるすべての人々に深く感謝し、
誠意と相互の信頼をもって共栄をはかる。

ライオン企業行動憲章

(2003年1月1日制定、2008年1月1日改定)

(前文) 私たちライオン・グループは、単に公正な競争を通じて利潤を追求するという経済的主体のみならず、広く社会にとって有用な存在であり続ける。次の10原則に基づき、国の内外を問わず、人権を尊重し、全ての法律、国際ルール及びその精神を遵守し、公共の福祉に反しないよう社会的良識をもって、持続可能な社会の創造に向けて自主的に行動する。

1. 【基本的使命】 私たちは、日々の暮らしに役立つ優良で安全な製品・サービスを提供し、お客様（消費者及びユーザーの皆様）の満足と信頼を獲得する。
2. 【社会規範の遵守】 私たちは、関連法規を遵守し、公正、透明、自由な競争ならびに適正な取引を行う。また、政治、行政との関係においても、健全で正常な関係を維持する。
3. 【情報開示】 私たちは、社会に開かれた企業として、株主はもとより、広く社会とのコミュニケーションを積極的に行い、企業経営全般にわたる情報を適時適切に開示する。
4. 【環境対応】 私たちは、経済発展と環境保全が両立する「持続可能な社会」を創造していくため、自主的、積極的に行動する。
5. 【就業環境の整備】 私たちは、就業者の多様性と人格・個性を尊重した公正な処遇を実践するとともに、就業者のゆとりと豊かさを実現するために安全で働きやすい環境を確保する。
6. 【社会貢献】 私たちは、社会の一員として、積極的に社会貢献活動を行う。
7. 【反社会的勢力との対決】 私たちは、市民社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力、団体との対決姿勢を貫く。
8. 【海外での貢献】 私たちは、海外においても、国際ルールや関連する国の法律の遵守はもとより、現地の文化及び慣習を尊重し、誠意と相互の信頼をもって現地の発展に貢献する。
9. 【企業倫理の徹底】 経営者は、本憲章の精神の実現が自らの役割であることを認識し、率先垂範の上、ライオン・グループ全体に周知徹底する。また、社内内外の声を常時把握し、意思疎通を深め、実効ある社内体制整備を行うとともに、企業倫理の徹底を図る。
10. 【問題解決】 本憲章に反する事態が発生したときには、経営者自らが問題解決にあたる姿勢を内外に表明し、その事実関係を明確にし原因の究明と再発の防止に努める。また、社会への迅速かつ的確な情報公開と説明責任を遂行し、社会にも十分理解される形で事態の解決を図り、権限と責任を明確にした上で、自らを含めて厳正な処分を行う。



ライオンのCSR

事業を通じて、健康で快適な
社会・環境に貢献します。

ライオンのCSRの原点は、「人のため、世のために役立つ仕事」という創業の精神にあります。
社是・経営理念に基づいて確固たる経営の基盤を作り上げ、経営ビジョンのもと、CSR重要課題を組み
込み事業活動を推進することで、社会の持続的な発展に貢献します。



企業・社会の持続的な発展

2020年
V-3計画

経営ビジョン
(Vision2020)

目指す姿

- 暮らしとこころの価値創造企業を目指す
- 環境対応先進企業を目指す
- 挑戦・創造・学習企業を目指す

めぐり来るすべての一日の
人の清潔、人の健康、人の快適、
そして人の環境を守り続け、
価値ある未来をつくる、
暮らしとこころの価値創造企業

2017年

V-2計画

快適事業

健康事業

環境対応
事業

P
D
C
A
の
推
進

2014年

V-1計画

CSR重要課題

⇒ p14~17参照

経営の基盤

ライオン企業行動憲章・行動指針

社是・経営理念



社是・経営理念

<http://www.lion.co.jp/ja/company/management.php>



ライオン企業行動憲章・行動指針

<http://www.lion.co.jp/ja/company/compliance/indicator.php>



ライオンの社会・環境貢献活動の全体像

一人ひとりの価値ある未来につながっている「今日」という日々のお役に立つため、ライオンは、事業活動だけでなく社会・環境貢献活動も進めています。

事業活動

一人ひとりの価値ある未来につながっている
「今日」へのお役立ち

社会・環境貢献活動

健康・快適分野



口腔保健啓発活動



衛生習慣啓発活動



関連情報はp48-49に記載しています。

環境分野



水資源保護活動



関連情報はp49に記載しています。

大事にしていること

・地域との共生

・従業員の参画

経営ビジョン

●健康・快適分野

ハミガキ、ハブラシなどのオーラルケア商品やハンドソープなどの清潔衛生関連商品など、よりよい生活習慣づくりに役立つ商品の提供とともに、口腔保健啓発活動、衛生習慣啓発活動を行っています。

●環境分野

環境に配慮したくらしの実現を目指し、商品の環境負荷を低減させるとともに、衣料用洗剤、ハミガキ、ハンドソープ、台所用洗剤など、「洗うこと」を通じて水との関わりが深い商品が主力品であることから、積極的に水資源保護活動を行っています。

●大事にしていること

当社が事業を継続するためには、事業所の所在地などゆかりのある地域との共生が必要であることから、地域の住民の方々や行政、市民団体などと連携をはかり、地域社会の課題解決に取り組んでいます。また、事業に関連した社会・環境貢献活動に従業員一人ひとりが参画する機会を増やすことで、高い社会・環境意識をベースに新しい価値を生み出す人材育成につなげます。



今日を愛する。

～コーポレートメッセージに込めた想い～

根底にある想い

LIONは、120余年にわたり人々の暮らしと共に歩んでまいりました。

そこで学んだことは、人の一生は、“今日”という一日一日を積み重ねたものであり、毎日を、前向きに、充実して生きることこそが、幸せの本質だということです。

“今日”を大切にすることは、一生を大切にすることです。

価値ある未来に向かって、めぐりくる“今日”という一日一日を、この瞬間を、いとおしみながら、ていねいに、前向きに生きていくこと、そんな一人ひとりの「今日を愛する。」に役立っていくことが、私たちLIONの使命であると決意し、この想いをコーポレートメッセージに込めました。

コーポレートメッセージ

幸せは、名もない一日につまっています。
どんなさりげない一日にも、心を澄ませば
感じる幸せが、いっぱいつまっています。
小鳥の声でめざまる幸せ。洗いたてのシャツに
腕を通す幸せ。炊きたてのご飯を
噛みしめる幸せ。雲ひとつない青空を
仰ぎ見る幸せ。「行ってらっしゃい」と
家族に送り出される幸せ。誕生日や、
結婚記念日や、クリスマスも大切だけれど、
人生の大半を占める、そんなふつうの
一日一日がどれほど大切か。ライオンは、
そのことを誰よりも知っています。
なぜなら、そこにライオンがいるからです。
そこに、ライオンの仕事の間があるからです。
いつも人のそばにいて、めぐり来る
すべての一日の、人の清潔、人の健康、
人の快適、そして人の環境を守りつづけること。
それこそが、私たちライオンの変わることのない
使命であり、誇りでもある。そう考えています。
幸せは、毎日生まれる。
人のからだやくらしが求める、
希望に満ちた新しい未来を、日本ばかりでなく、
広く世界にも届けられることを大きな
よろこびとしたい、私たちライオンです。

今日を愛する。

LION

生活者の「今日を愛する。」への ライオンの取り組み

製品を通じて

歯みがき、手洗い、掃除、洗濯などの日々の生活を健康で、快適に暮らせるよういつも人の近くで支えています。

そんな想いを込めてライオンは製品を開発しています。



社会・環境貢献活動を通じて

歯みがき・手洗いなどの健康習慣の啓発活動、水資源保護活動。これらを通して健康で快適な社会・環境に貢献したいと私たちは考えます。



ライオングループの事業活動の歴史

口腔衛生事業

ニーズに対応した機能付加と
口腔衛生普及・啓発活動

創業期

(1896年～)

口腔衛生の普及／
社会貢献活動の原点



獅子印ライオン歯磨



袋の裏の慈善券
(社会貢献活動の原点)

成長期

(1913年～)

子どものための歯みがき
習慣の啓発活動を開始



商品の付録の絵本
(子どもへの口腔衛生活動の原点)



ライオン児童歯科院

大量生産期

(1960年代～1970年代)

市場を拡大し、世界に
通用する製品を開発



小田原工場竣工
(生産体制の増強)



ホワイト&ホワイト
(使いやすい容器、
ラミネートチューブの開発)

清潔衛生・環境対応事業

清潔衛生の啓発と地球環境対応

衛生観念の普及啓発

(1891年～1940年代)

洗剤で「洗う」ということの
普及啓発



標準家庭洗濯法
(洗濯方法の啓発)



ライボン
(日本初のアル
コール系合成
洗剤)



植物性ライオンせんたく石鹸
(日本初の植物性原料の石けん)

戦後日本の 衛生環境改善への貢献

(1950年代)

野菜を洗うための洗剤で
寄生虫の撲滅に貢献



ライボンF
(日本食品衛生協会
推奨第一号製品)

水環境問題への対応

(1960年代～1980年代)

合成洗剤の普及とともに発生した
河川の発泡や富栄養化に対応



ダッシュ



無りんトップ

洗濯石けんとハミガキから始まったライオンの事業は、創業以来、口腔衛生文化・清潔衛生文化の担い手として、商品を提供し、よき習慣づくりを提案してきました。このことを強みとして、ライオングループは社会的課題として関心の高い「口腔衛生」「清潔衛生」「環境対応」の分野を主な事業領域として取り組みを進めてきました。

口腔衛生事業は、当社の主力事業です。当社は、その時代ごとに新しい機能を付加した製品を開発し、口腔衛生に関する正しい知識を提供することで、人々の生活習慣の改善に寄与してきました。

拡充期

(1970年代以降)

多様化する口腔の健康問題に、
より科学的な研究で対応



クリニカライオン
(ムシ歯予防)



デンターライオン
(歯槽膿漏予防)



デンターシステムシリーズ
(歯周病予防)

現在

口腔衛生から全身健康へ
「予防歯科」の推進

クリニカ
アドバンテージシリーズ
(「予防歯科」の推進)

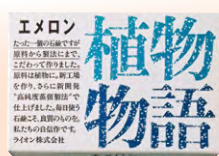


アジア地域での
口腔保健啓発活動

当社は、衣料用洗剤や石けんなど、さまざまな洗浄剤を提供し、世の中の衛生観念が低かった時代から現在まで、清潔衛生文化の発展に貢献してきました。また、製品開発においては水環境問題にはじまり、現在は地球環境問題にも取り組んでいます。

石油資源問題・
省資源化への対応
(1990年代)

植物原料の
製品を拡大



植物物語



スパーク

食中毒多発による
除菌ニーズの拡大への対応
(1990年代～2000年代)

薬用石けんの発売と子どもの
ための啓発活動を展開



手洗いの啓発活動



キレイキレイ
薬用ハンドソープ



キレイキレイ
薬用泡ハンドソープ

現在

水資源問題・節水への対応



トップ
スーパーNANOX

トップ
HYGIA

ルックおふろの
防カビくん煙剤

アジアの清潔な暮らしに貢献



海外NANOX

韓国で販売されている
衣料用洗剤「ビート」



ライオングループのCSR管理体制の構築

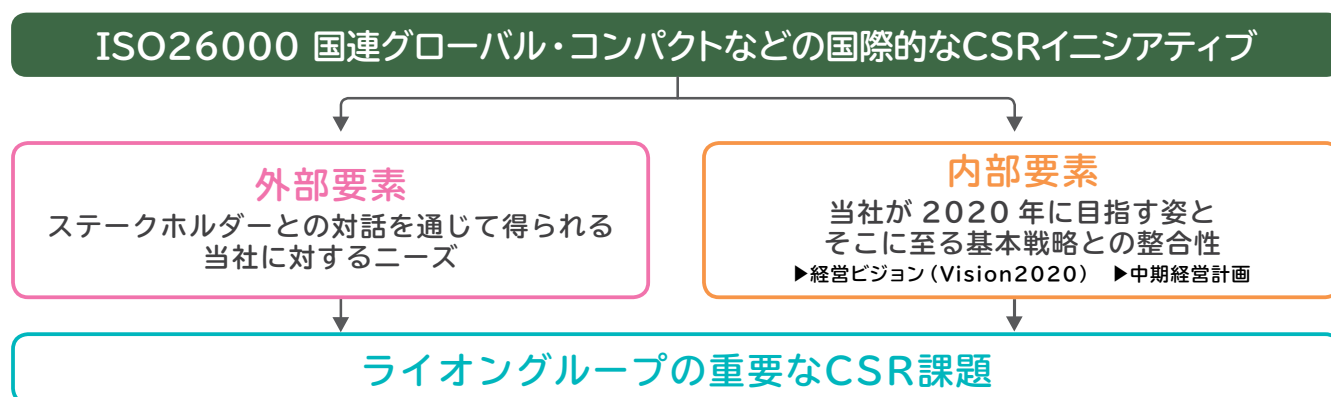
CSR目標の設定と進捗管理

当社は、2011年から国際的な社会的責任の手引きであるISO26000を活用し、第三者機関の意見を参考にしながら、国内グループにおいて対応状況の確認・評価を行ってきました。CSRに関する世界的な動向や当社グループの事業特性、潜在的なリスク・機会と影響度などを検討し、2012年にCSR重要課題を特定しました。

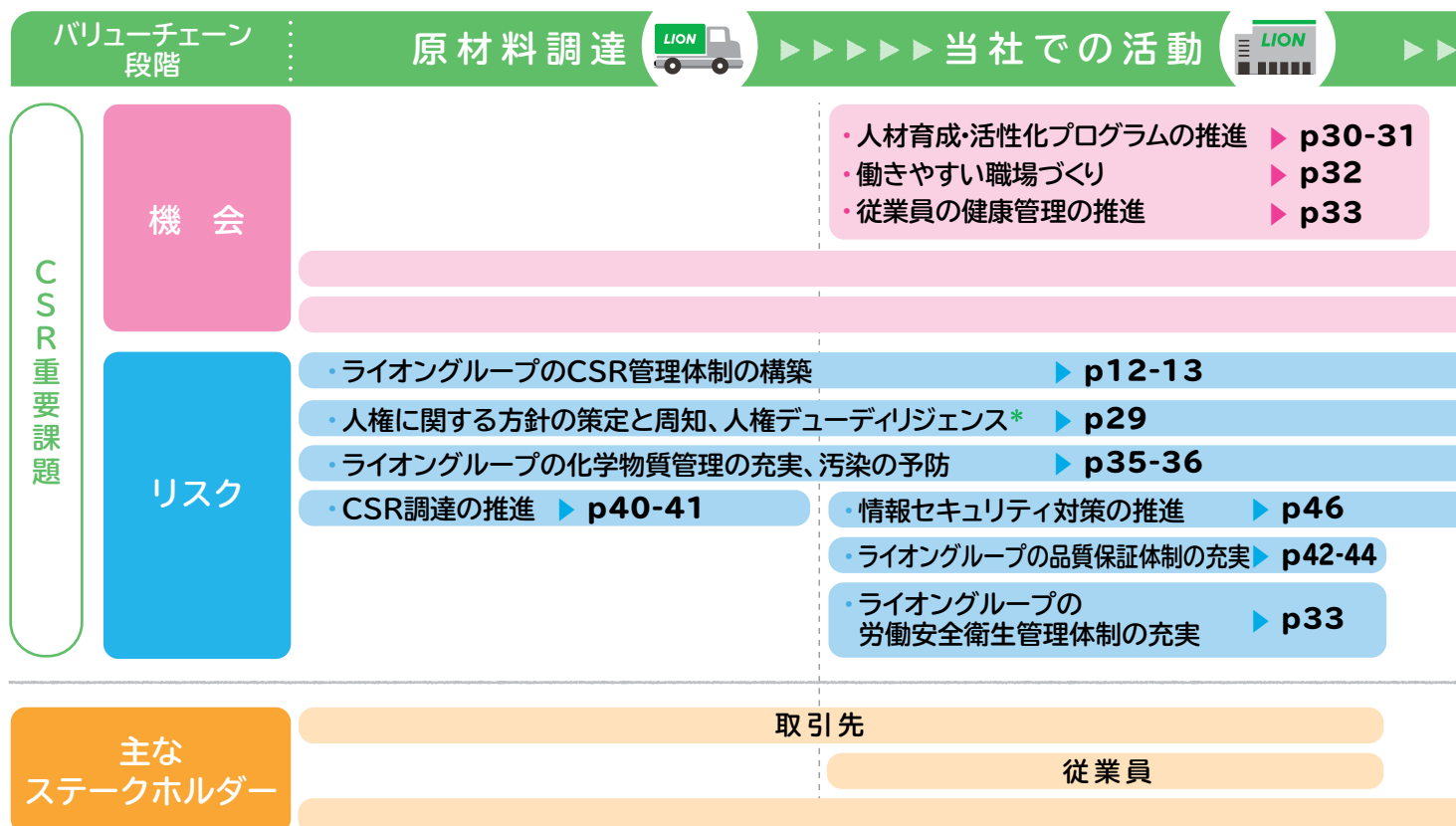
また、重要課題それぞれにおいて、経営計画に合わせた3か年の中期目標を設定しています。2015年は、V-2（2015～2017年）中期目標の達成に向けて、PDCAによる改善活動を行いました。

さらに、海外グループにおける対応状況の確認・評価をふまえ、2015年に海外を含むオールライオンでの重要課題を特定しました。

重要課題の特定プロセス



バリューチェーンと重要課題（2015年の活動を関連ページに記載しています。）



*人権に関連する悪影響を認識し、防止し、対処するために組織が実施すべきステップ。



2015年 ハイライト 01

ライオングループの 国内外での口腔保健啓発活動

「健康で快適な生活習慣づくり」を目指す当社は、人々の「健康寿命」の延伸に着目し、日本国内だけでなく海外拠点のあるアジア各国においても、口腔保健啓発活動を行っています。1932年から続いている「学童歯みがき大会」*は、インターネットを使った配信により、日本をはじめアジア各地

の小学生も参加しています。また、海外グループ会社においては、それぞれの国・行政・地域と連携した啓発活動を行っています。

*2016年より「全国小学生歯みがき大会」へ名称を変更。

➡ 関連情報 p18-23

2015年 ハイライト 02

ハブラシリサイクル プログラムの推進



当社は、「環境対応先進企業の実現」を経営目標のひとつに掲げ、ものづくりの場や事業活動において環境負荷低減に取り組んでいます。この考えのもと、使用済みハブラシを回収して植木鉢などにリサイクルするプログラムを2015年から開始しました。歯と口の健康のために定期的

なハブラシ交換（1ヵ月に1回）を促すとともに、生活者が毎日使用しているハブラシを手軽にリサイクルする場を提供することで、生活者の環境への意識向上を目指しています。

➡ 関連情報 p24-25

消費者による使用



社会・環境



・暮らしに役立つ生活情報の
発信と啓発活動 ▶ p45

・持続可能な社会の発展に
貢献する商品・情報の提供 ▶ p24-25, 46

・先進的な環境への取り組み ▶ p34-39

・健康で快適な生活習慣づくりにつながる社会貢献プログラムの充実 ▶ p18-25, 47-49

・リスクマネジメントの推進、コンプライアンスの浸透／内部統制 ▶ p26-28

お客様

地域社会

環境




株主・投資家



CSR重要課題に関する

中期経営計画 (V-2:2015～2017年) における目標と2015年実績

ライオンが特定したCSR重要課題において、2017年中期目標の達成に向けた活動を推進しました。国内については、毎年実施している部所横断型の委員会での活動に加えて、新しい人事施策の推進やe-ラーニングによる各種研修などを実施しました。海外については、国や地域によって異なる法律・文化・習慣の違いを考慮しつつ、それぞれのグループ企業の状況をふまえて順次活動を進めました。

中核主題	目指す姿	重要課題	2017年中期目標
<div></div> <div>組織統治</div>	社会から信頼され続ける健全な経営体制の維持	ライオングループのCSR管理体制の構築	<div>国内</div> CSR方針としてのライオン企業行動憲章の浸透
			<div>海外</div> CSRに関する方針の周知徹底
			<div>国内</div> 目標の進捗管理
			<div>海外</div> 目標の設定と進捗管理
		リスクマネジメントの推進	<div>国内</div> 多面的な想定に基づいた事業継続計画（BCP）の継続運用
<div></div> <div>コンプライアンスの浸透／内部統制</div> <div>16</div>		<div>国内</div> コンプライアンス意識の啓発	
		<div>海外</div> 内部統制システムの強化	
<div></div> <div>人権</div>	人権を尊重する体制の整備	人権に関する方針の策定と周知	<div>国内</div> 人権方針としてのライオン企業行動憲章の浸透
		人権デューディリジェンス*1	<div>国内</div> サプライヤーによるCSR活動のセルフチェックの推進とフィードバック
			<div>国内</div> ホットラインの周知、相談・通報案件への対応
			<div>海外</div> 社内通報・相談窓口の設置と運用

*1 人権に関連する悪影響を認識し、防止し、対処するために組織が実施すべきステップ

持続可能な開発目標 (SDGs)






下表の重要課題の列に記載している番号は、ライオンが事業を通じてその達成に貢献したいと考えているSDGsの番号です。

各SDGsの達成に向けたライオンとしての目標及びKPIは、ライオンの事業の方向性を勘案しつつ今後検討していきます。



国際連合広報センター Web サイトより引用

2015年実績	CSR報告書2016 関連情報ページ	当社WebページのURL
●ライオン企業行動憲章に関するeラーニングの実施 (年2回実施)	p28	http://www.lion.co.jp/ja/csr/management/compliance/
●就業規則への記載や研修・掲示・朝礼などでの周知	—	—
●CSR報告書による進捗の公開 (年1回実施)	p14-17	http://www.lion.co.jp/ja/csr/lion_csr/promotion/vision.php
●目標の設定 [CSR報告書2015にV-2 (2015~2017年) 中期目標開示] ●CSR報告書による進捗の公開 (年1回実施)	p14-17	http://www.lion.co.jp/ja/csr/lion_csr/promotion/vision.php
●執行役員会でのBCPの確認と見直し (年1回実施) ●「新型インフルエンザ等感染症対策マニュアル」の改定	p27	http://www.lion.co.jp/ja/csr/management/risk/
●コンプライアンス意識調査アンケートの実施 (年1回実施、2015年回答率98%) ●eラーニングによるコンプライアンス、セクハラ・パワハラ、 インサイダー取引などに関する研修の実施	p28	http://www.lion.co.jp/ja/csr/management/compliance/
●財務報告に係る内部統制の導入および評価実施	—	—
●ライオン企業行動憲章に関するeラーニングの実施 (年1回実施)	p29	http://www.lion.co.jp/ja/csr/humanrights/policy/
●サプライヤーのCSR活動のセルフチェックと、サプライヤー への評価結果のフィードバックの実施 (年1回実施)	p41	http://www.lion.co.jp/ja/csr/businesscustom/valuechain/
●コンプライアンス意識調査アンケートによる周知 (年1回実施、2015年周知率98%) ●全ての案件への対応と収拾	p28	http://www.lion.co.jp/ja/csr/management/compliance/
●社内外通報窓口、社内相談窓口の設置と運用	—	http://www.lion.co.jp/ja/csr/management/compliance/

中核主題	目指す姿	重要課題	2017年中期目標
 労働慣行	従業員のモラルとモチベーションの向上による意識変革	人材育成・活性化プログラムの推進	<div>国内</div> 目標管理制度の実施によるPDCA推進施策の浸透 グローバル人材の育成
		働きやすい職場づくり	<div>国内</div> 多様な人材の活躍推進プログラムの充実～女性のキャリア形成支援施策実施～ <div>国内</div> 健康いきいき施策によるワーク・ライフ・バランスの推進 <div>海外</div> 経営と従業員との対話機会の充実
		従業員の健康管理の推進	<div>国内</div> 従業員に健康でいきいきと働いてもらうための環境整備
		ライオングループの労働安全衛生管理体制の充実	<div>国内</div> 「安全衛生防災マネジメントシステム」に基づく労働安全と設備安全の充実
 環境	「環境対応先進企業」としての持続可能な社会の発展への貢献	先進的な環境への取り組み 6 7 12 13 14 15	<div>国内</div> <div>海外</div> 「Eco Vision 2020」の推進と進捗管理
		汚染の予防 6 14 15	<div>国内</div> 汚染予防対策の推進
		ライオングループの化学物質管理の充実 6 14 15	<div>国内</div> 化学物質管理体制の充実
 公正な事業慣行	バリューチェーン全体でのCSR活動の推進	CSR調達の推進 5 6 7 10 13 14 15 16	<div>国内</div> サプライヤーによるCSR活動のセルフチェックの推進とフィードバック <div>国内</div> 「Eco Vision 2020」の推進と進捗管理
 消費者課題	安全で安心な商品づくりによるお客様満足度の追求	持続可能な社会の発展に貢献する商品・情報の提供 6 12	<div>国内</div> 商品を通じた生活者の環境啓発活動の推進
		くらしに役立つ生活情報の発信と啓発活動	<div>国内</div> ライフスタイル・ライフステージに応じた健康で快適な生活に寄与する情報発信の拡充
		ライオングループの品質保証体制の充実	<div>国内</div> 品質保証管理体制の充実
			<div>海外</div> 各国規制対応の強化とお客様対応の充実
		情報セキュリティ対策の推進	<div>国内</div> 情報セキュリティ対策の推進
			<div>海外</div> 情報セキュリティ管理体制の充実
 コミュニティ参画および発展	社会や地域との共存共栄／健康・快適・環境分野での社会の発展への貢献	健康で快適な生活習慣づくりにつながる社会貢献プログラムの充実 3 6 12	<div>国内</div> <div>海外</div> 口腔保健啓発活動の推進～予防歯科(セルフケアとプロフェッショナルケアの推奨)の推進、保健指導者向け、子どもへの教育・啓発など～ <div>国内</div> <div>海外</div> 清潔衛生啓発活動の推進～子どもの手洗い・うがい啓発活動の推進など～

2015年実績	CSR報告書2016 関連情報ページ	当社WebページのURL
<ul style="list-style-type: none"> ●目標達成へのPDCAを廻す取り組みを強化するための目標管理制度と研修の推進 ●マーケティング適性人材の発掘 	p30	http://www.lion.co.jp/ja/csr/employee/development/
<ul style="list-style-type: none"> ●女性活躍推進に基づく目標と実行策の行動計画策定完了 ●障がい者雇用促進のための特例子会社の設立に向けた推進 	p31	http://www.lion.co.jp/ja/csr/employee/various/
<ul style="list-style-type: none"> ●次世代法第4期行動計画の全目標達成 ●第5期行動計画の策定と推進 	p32	http://www.lion.co.jp/ja/csr/employee/work_life/
<ul style="list-style-type: none"> ●労使対話の定期的な実施 	—	—
<ul style="list-style-type: none"> ●e-ラーニングによる健康管理に関する研修の実施 ●定期健康診断の実施（年1回実施） 	p33	http://www.lion.co.jp/ja/csr/employee/health/
<ul style="list-style-type: none"> ●安全衛生防災会議による安全活動のPDCA推進（年2回実施） 	p33	http://www.lion.co.jp/ja/csr/employee/prevention/
<ul style="list-style-type: none"> ●環境目標「Eco Vision 2020」の2017年目標の策定と進捗管理の実施 	p34-39	http://www.lion.co.jp/ja/csr/env/ecovision2020/
<ul style="list-style-type: none"> ●法定および自主基準による排気・排水管理の徹底 ●業界団体、当社独自双方による河川水モニタリング 	p35	http://www.lion.co.jp/ja/csr/env/prevention/
<ul style="list-style-type: none"> ●化学物質情報管理体制の構築と運用 	p36	http://www.lion.co.jp/ja/csr/env/enhancement/
<ul style="list-style-type: none"> ●サプライヤーのCSR活動のセルフチェックと、サプライヤーへの評価結果のフィードバックの実施（年1回実施） 	p41	http://www.lion.co.jp/ja/csr/businesscustom/valuechain/
<ul style="list-style-type: none"> ●環境保全推進委員会による進捗管理（年2回実施） ●RSPO認証パーム油誘導体の購入開始 	p34-35, 40	http://www.lion.co.jp/ja/csr/env/ecovision2020/ http://www.lion.co.jp/ja/csr/env/guide/
<ul style="list-style-type: none"> ●エコ商品への環境ラベルの表示と情報公開 ●ハブラシリサイクルプログラムの推進 	p24-25, 46	http://www.lion.co.jp/ja/csr/consumer/3r/
<ul style="list-style-type: none"> ●「暮らしのマイスター」による生活情報の創造・蓄積・発信 ●オーラルケアソリューションビジネスの推進（オーラリス、オーラルコム） ●生活者向けの情報交換型イベントの実施 ●新生活情報メディア「Lidea」による情報公開 	p45	http://www.lion.co.jp/ja/csr/consumer/communication/
<ul style="list-style-type: none"> ●CS/PL委員会による品質保証活動のPDCA推進（年2回実施） ●化学物質情報管理体制の構築と運用 ●e-ラーニングによる「品質保証の基礎」に関する研修の実施 	p28,35, 42-44	http://www.lion.co.jp/ja/csr/consumer/quality/
<ul style="list-style-type: none"> ●GHS表示対応の推進 ●お客様対応窓口やマーケティング部門などによるお客様対応の強化 ●各国法規制への対応力強化 	—	—
<ul style="list-style-type: none"> ●e-ラーニングによる情報セキュリティ、ソーシャルメディアのリスク、情報管理体制に関する研修の実施 	p46	http://www.lion.co.jp/ja/csr/consumer/info-security/
<ul style="list-style-type: none"> ●個人情報、機密情報の漏洩を防止するための各種対策の実施 	—	—
<ul style="list-style-type: none"> ●学童歯みがき大会*2の実施 ●事業所周辺地域での歯みがき啓発活動の実施 ●幼稚園・保育所などでの歯みがき啓発活動の実施 	p18-23, 48	http://www.lion.co.jp/ja/csr/community/oral/ http://www.lion.co.jp/ja/csr/highlight/2015/
<ul style="list-style-type: none"> ●事業所周辺地域での手洗い啓発活動の実施 ●幼稚園・保育所などでの手洗い啓発活動の実施 	p49	http://www.lion.co.jp/ja/csr/community/washing/

*2 2016年より全国小学生歯みがき大会に名称を変更。

2015年
ハイライト

01




ライオングループの 国内外での口腔保健啓発活動 ～生涯にわたる健康な歯と口を目指して～

健康寿命とは

世界の平均寿命は、医療技術の進歩、食生活や栄養状態の改善、衛生習慣の普及などにより大幅に延伸しています【表1】。しかし、実際の寿命と、健康に生きていける寿命は多くの人の場合異なります。ただ長生きするのではなく、生涯にわたり心身ともに健康で生きていくこと、すなわち「健康寿命」に着目することが大切です。

世界の平均寿命と健康寿命には8年もの差があります【表2】。長寿の国といわれる日本においても、同様に差が開いており、健康寿命の延伸は世界的な課題となっています。

【表1】世界の平均寿命

男女平均		男性平均		女性平均	
					
1990年	2015年	1990年	2015年	1990年	2015年
64歳	71歳	62歳	69歳	67歳	74歳

出典：WHO World Health Statistics 2015
WHO World Health Statistics 2016

口腔保健と健康寿命

近年では、口腔保健と健康寿命には密接な関わりがあることが明らかになってきています。

健康に生きていくためには、毎日美味しく食事をとることが不可欠です。そのためには生涯20本の歯を残すことが必要といわれています。毎日の正しい口腔ケアを行わないと、歯周病やムシ歯により歯を失うリスクが高まります。

また、口腔疾患は歯と口にとどまらず、全身の健康に影響を与えることがわかってきています。残存歯数が少ないと、美味しく食事をとることが困難になるだけでなく、骨密度の減少や認知症の発症リスクを高めるといわれています。さらに、歯周病は、糖尿病や肺炎などの全身疾患との関連性が高いことがさまざまな研究で指摘されています。

つまり、健康寿命を延伸するためには、健康な歯と口を保つことがとても重要なのです。

ライオンの取り組み

ライオングループでは、生活者が生涯にわたり健康で快適に暮らすことを目指し、口腔保健啓発活動を日本だけではなく、海外事業所各地でも推進しています。当社の海外事業所所在国・地域で実践した口腔保健啓発活動の一部を紹介します。






今後もライオングループは、健康寿命の延伸に、商品の提供とともに口腔保健啓発活動を通じて貢献します。

【表2】世界の健康寿命（2015年データ）

男女平均値

	平均寿命*	健康寿命*	差
世界平均	71歳	63歳	8歳

ライオンの事業所在地

	平均寿命*	健康寿命*	差
 日本	84歳	75歳	9歳
 中国	76歳	69歳	7歳
 インドネシア	69歳	62歳	7歳
 マレーシア	75歳	67歳	8歳
 フィリピン	69歳	61歳	8歳
 韓国	82歳	73歳	9歳
 シンガポール	83歳	74歳	9歳
 タイ	75歳	67歳	8歳

*出典：WHO World Health Statistics 2016

アジア各国で開催している学童歯みがき大会

生涯にわたって健康な歯と口を保つには、子どもの頃から正しいオーラルケア習慣を身につけることが大切です。当社は、小学生から歯と口の健康意識を育むことに重点を置き、公益財団法人ライオン歯科衛生研究所(LDH)と共同し、1932年より「学童歯みがき大会」*を開催しています。この大会は、「歯と口の健康週間(6月4日～10日)」に開催し、インター

ネットを通じて1時間の授業で楽しく口腔保健の大切さを伝えています。

今では毎年約7万名もの小学生が参加する全国規模の大会へと進化し、日本にとどまらず、アジア各国・地域で開催しています。

*2016年より「全国小学生歯みがき大会」へ名称変更。

2015年開催国・地域

学童歯みがき大会 韓国大会



累計
99万名*
🦷

*累計は大会開催年の
1932年から

中国
2015年参加人数
約**40名**



韓国
2015年参加人数
約**700名**



日本
2015年参加人数
約**70,000名**



香港
2015年参加人数
約**80名**



タイ
2015年参加人数
約**180名**



ベトナム
2015年参加人数
約**70名**



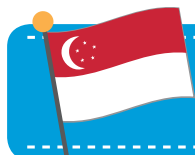
フィリピン
2015年参加人数
約**80名**



シンガポール
2015年参加人数
約**200名**



タイでの学童歯みがき大会



シンガポールでの口腔保健啓発活動

① 児童への口腔保健啓発

シンガポールライオンでは、Singapore Health Promotion Board*と共同で、口腔保健教育を推進しています。その活動の一環として、「Health on Wheels(移動バス教室)」キャンペーンに取り組んでいます。このキャンペーンでは、移動バスで幼稚園・小学校に出向き、5歳から8歳の子どもたちにバスの中で口腔保健授業を行っています。授業では、

歯みがきに関するアドバイスやコツを教え、参加した子どもたちに「Kodomo オールケアパック(シンガポールライオンが販売している商品)」を配付しています。これまでに15,000名の子どもたちに対して口腔保健教育を行いました。

*シンガポール国民に向けた健康啓発活動や病気の予防プログラムを推進しているシンガポール政府の組織。



「Health on Wheels」キャンペーンの移動バス



ファシリテーターによる口腔保健指導

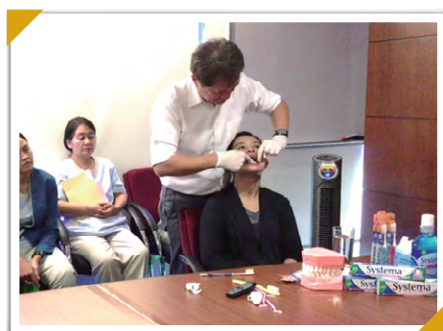
② 貧困地域への口腔保健啓発

歯と口の健康の大切さを伝えるために、そしてシンガポールの恵まれない地域では正しい口腔ケアが行き届いていないことを国民に知ってもらうために、シンガポールライオンはSingapore Dental Health Foundation*と共同して全国規模の口腔保健キャンペーン(Systema Ting Ting-a-Smile Campaign)を実施しています。このキャンペーンの一つとして、シンガポール全土で放映されているバラエティ

番組「The Joy Truck TV」を通じて口腔保健啓発を行っています。番組では介護従事者向けに、高齢者の正しい口腔ケアについて指導しています。

また、シンガポールライオンでは貧困地域の方々へオールケア商品の寄付を行っており、これまでに5,000セット寄付しました。

*シンガポール国民の口腔保健意識向上に向けて口腔保健啓発活動に取り組んでいるボランティア組織。



番組での歯間清掃指導



番組での歯みがき指導



シンガポールライオン担当者の声

Senior Product Manager, Serene Koh

子どもたちや介護従事者の皆様が、積極的に正しい口腔ケア習慣について学んでいただいているのを見ると、その活動をお手伝いしている側としてとても嬉しく思います。これからも継続的にシンガポールの皆様に口腔保健の大切さを啓発し、人々のQOL(Quality of Life = 生活の質)の向上に貢献したいと思います。





韓国での口腔保健啓発活動

① 保健所「歯みがき相談室」

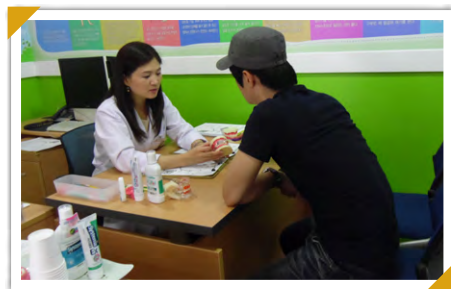
韓国ではCJライオンが地域住民の口腔保健意識の向上を目指し、保健所と共同して「歯みがき相談室」を2012年より開催しています。参加者に自分の口腔状態についてセルフチェックをして頂いた後、個別検査を行い、それぞれの歯と口

の状態に合わせたセルフケア方法を指導しています。

2015年は約2,080名が参加し、累計で約6,800名の方が歯みがき相談室に参加しています。



家族での参加も多数



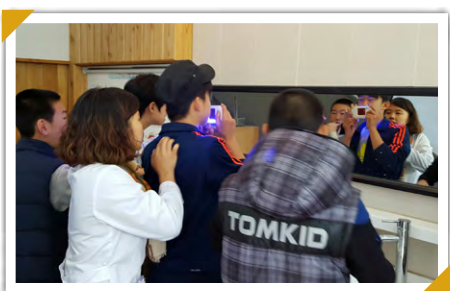
歯とお口の状態に合わせたオーラルケア方法の個別指導

② 小中学校での口腔ケア指導

CJライオンは、西大門区保健所とヨンセ大学歯科学部予防歯科の協力のもと、ソウル市内の西大門区管内の小学校や中学校を対象に歯みがき施設(歯科健診や口腔ケア指導を行う施設)を設置し、歯みがき教育を2014年より実施しています。歯みがき施設では、歯科医師・歯科衛生士による継続的なモニタリング教育として、歯科健診を3年間継続的に行い経過観察しています(年2回、対象は小学4～6年生、中学1～3年生)。

また、正しい口腔ケア習慣を身につけてもらうよう、毎月1回歯科衛生士が学校を訪問し、昼食後の歯みがき習慣や正しい予防歯科習慣を子どもたちに伝えています。

歯みがき施設を設置している学校は2014年の2校から2016年の6校へと拡大され、累計で約4,000名の子どもたちに歯みがき教育を行っています。



みがき残しがないように、チェック!



クラスごとに歯みがき教育を実施

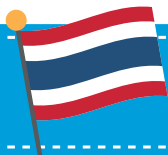


CJ ライオン担当者の声

Risk Management & CSR Team CSR Specialist 課長 文 智鈴 (mun・chyon)

こんにちは! CSR社会貢献を担当しているmun・chyonです。企業がよい製品を通じて生活者の快適な生活をサポートするように、私は、「健康・快適生活支援」の社会貢献事業を通してサポートしています。活動を通じて毎日たくさんの笑顔に出会い、逆に元気をいただいています。歯みがき相談室では、恥ずかしそうにのど飴を分けてくださるおばあさんの穏やかな笑顔に出会います。学校では“先生、大好き”と言ってくれる元気いっぱいの子どもの笑顔が見られます。みんなの笑顔を元気のもとに、地域社会における私たちCJライオンの役割を真剣に考え、今後も従業員全員が一緒にできるさまざまな社会貢献事業を企画し、進めていきます!





タイでの口腔保健啓発活動

🦷 学術面での口腔保健啓発

タイライオンでは、ライオン・オーラル・ヘルスアワードを毎年実施しています。このアワードは、タイの予防歯科に役立つ研究や活動をしている人の助成を目的に、タイの有力歯科医師の協力のもと、優秀な予防歯科に関する研究や活動

に対して表彰および賞金を贈呈しています。2009年から実施しており、2015年までに26団体に授与しました。授賞式当日はタイ公衆歯科衛生協会の学会も開催され、予防歯科に関する講演が実施されました。



2015年12月に行われたライオン・オーラル・ヘルスアワード

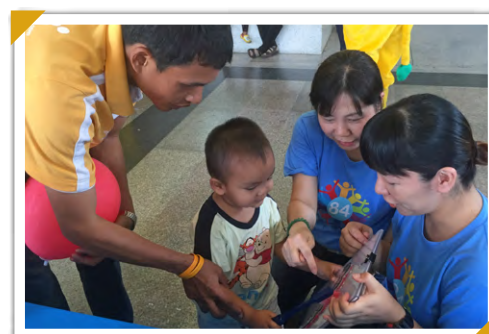


🦷 政府と連携した口腔保健啓発

タイ政府は、国民の健康意識を高めるために2012年より「ヘルスフェア」を実施しています。このフェアでは、ボランティアの医師や看護師により、参加者への健康診断や薬を処方しています。

タイライオンは、正しい口腔ケアを啓発するために、この

フェアでブースを出展し、歯みがき指導を実施しています。2015年は、ナコンラチャシーマ県のスラナリ病院で実施されたヘルスフェアにて、2,000名に歯みがき指導を実施するとともに、参加者にハブラシやハミガキを配付しました。



スラナリ病院で参加者に歯みがき指導を実施



Voice タイライオン担当者の声

私たちは「ヘルスフェア」で歯みがき指導ブースの担当をしているオーラルヘルsteamです。

ブースに立ち寄っていただく様々な世代のお客様のお悩みを聞き、適切な歯みがきの方法やアドバイスを伝えています。直接お客様とお話できる貴重な場なので、これからも政府と連携し、お客様の要望を聞きながら、このようなイベントをさらによくしていきます。



(左から) Pornnapa Wimonrat, Ananya Muangkaew, Wanna Thamromdee, Karnjana Anurakkamolkul, Saovane Ninlux, Ayumi Sakashita, Phakpoom Suvarnaketaka

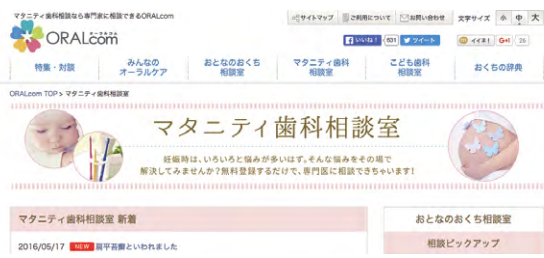
日本での口腔保健啓発活動

ライオンは1913年から、生活者の大切な歯と口の健康を目指し、口腔保健啓発活動を行っています。ムシ歯などになってから治療するのではなく、なる前の「予防」を大切にする「予防歯科」を浸透させる啓発活動を推進しています。従業員一人ひとりが予防歯科の重要性を認識し、行政・学校・病院・歯科医

院などの社外団体との連携を通じて、生活者のライフステージに沿った啓発活動に全社で取り組んでいます。

また、ライオンは、公益財団法人ライオン歯科衛生研究所(LDH)の活動を、全面的に支援しています。

マタニティ



ライオンが運営する歯科医療情報サイト「オーラルコム」では、トラブルの多い妊娠期のプレママと赤ちゃんのお口の悩みにこたえています。

[マタニティ歯科相談室]

URL <http://www.oralcom.net/maternity/>

乳幼児



ライオンは市町村が実施する1歳6か月児健診において、予防歯科の大切さを伝えるリーフレットや子ども向けフッ素配合ハミガキを配付しています。これまでに約20万名の乳幼児に配付しました。

中・高生



ライオンがスポンサー企業として応援しているTV番組「全国高等学校クイズ選手権」の参加者を対象にLDHと共同して歯間清掃用具使用の啓発を行っています。

小学生



1932年から、毎年6月の「歯と口の健康週間」に合わせて「学童歯みがき大会」*をライオンとLDHが共同で開催しています。
*2016年より「全国小学生歯みがき大会」へ名称変更。

[小学生歯みがき研究サイト「歯みがKids」]

URL <https://www.lion-dent-health.or.jp/hamigakids/>

成人



就業者を対象に、歯周病の予防と歯と口の健康の保持・増進に重点を置いた歯科健診をLDHで実施しています。

シニア



LDHでは生涯にわたって歯と口の健康を保つための「健口美」体操を企画制作し、啓発用パンフレット、動画などを通じてこの体操の普及に努めています。

[「健口美」体操]

URL <https://www.lion-dent-health.or.jp/kenkobi/>

2015年
ハイライト

02

ハブラシリサイクル プログラムの推進



当社は2015年5月より、テラサイクルジャパン合同会社（以下、テラサイクル社）と提携し、使用済みハブラシを回収してリサイクルするプログラム「ハブラシリゲード」をアジアではじめて開始しました。

※ブリゲードとは連隊、旅団サイズの軍隊を指し、ひとつの目的を共有し、団結して事を成すという意味。

プログラムの狙い

ハブラシは、子どもから大人まで、すべての生活者にとっての生活必需品であり、年間で約4.5億本^{*1}が消費されています。しかし、今までは使用済みのハブラシは、埋め立て地に送られたり、焼却されたりしており、資源として活用する場がありませんでした。

当社は、オーラルケアのリーディングカンパニーとして長きに

わたり、生活者の歯と口の健康増進を応援してきました。同時に、「環境対応先進企業の実現」を経営目標のひとつに掲げ、ものづくりの場や事業活動において環境負荷低減に取り組んでいます。これらの考えのもと、下記の狙いを定め、テラサイクル社と共同で、日本国内でプログラムを推進しています。

狙い 1 身近なリサイクル活動の場としての貢献

大人から子どもまで生活者が自ら取り組めるリサイクル活動の場を提供し、地域・社会の環境負荷低減活動の活性化に貢献する。

狙い 2 お口の健康管理への貢献

ハブラシの適切な交換サイクル（1ヵ月に1回）での交換を推奨し、生活者の歯と口の健康保持・増進をはかる。

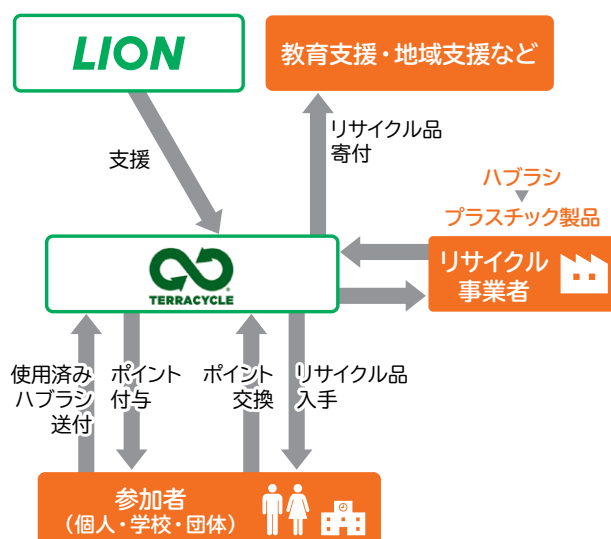
^{*1} 国内生産本数、全日本ブラシ工業協同組合 調べ

プログラムの内容

プログラム参加希望者は、個人・学校・団体などの単位で事前に参加登録し、使用済みのハブラシを集めます。学校や施設であれば、回収ボックスなどを設置し、多くの方からの収集が可能となります。集めた使用済みハブラシは指定運送業者が集荷し、参加者には集めた重量に応じてポイントが付与されます。そのポイント数に応じて、ハブラシをリサイクルして作られたプラスチック製品（植木鉢など）との交換や教育支援・地域支援などの寄付に換えることができます。



再生品の植木鉢



2015年の活動実績

2015年は、公民館、学校、児童館、販売店など合計115*2もの回収拠点が立ち上がりました。人々のリサイクル意識および口腔保健意識の向上を目指し、今後もプログラムを推進します。

*2 2015年12月15日時点

児童館での設置



フレンドリープラザ墨田児童会館



さくら橋コミュニティセンター

販売店での設置



ドラッグストア クリエイトエス・ディー藤沢柄沢店



ドラッグストア クリエイトエス・ディー新鴨志田店



Voice

プログラム担当者の声 事業開発部 横山 準

私は、このプログラムの活動内容を企画し、テラサイクル社のメンバーと協力して活動を推進しています。初年度である2015年は、この活動の認知拡大に向けて記者発表会や、ポスターコンクールなどのPRイベントを行いました。また、ライオンの本社所在地である東京都墨田区では、中学校や児童館などに直接出向き、回収活動への参画を呼びかけて、地域での活動促進にも取り組みました。

ハブラシは子どもから大人まで使う生活道具であることから、「身近で誰にでも取り組みやすい活動ですね」との声をいただくことができました。特に学校関係の皆様からは、「生徒自身が主体的に取り組むことができ、環境教育と健康教育につながっている」とおうかがいして、とてもうれしく思っています。また、「この活動をきっかけにハブラシの定期的な交換を意識するようになりました」との反響もいただいております。

これからも、ハブラシのリサイクルという新しい切り口で、生活者の皆様の環境意識向上と歯と口の健康づくりに貢献できるよう、取り組んでいきます。





組織統治

目指す姿

社会から信頼される 健全な経営体制の維持

基本的な考え方

当社は、経営の透明性を高め、監督機能と意思決定の迅速化をはかり、コンプライアンスを確保することを、コーポレート・ガバナンス上の最重要課題と位置づ

けており、コーポレート・ガバナンス体制の強化・充実に努めています。

コーポレート・ガバナンス体制

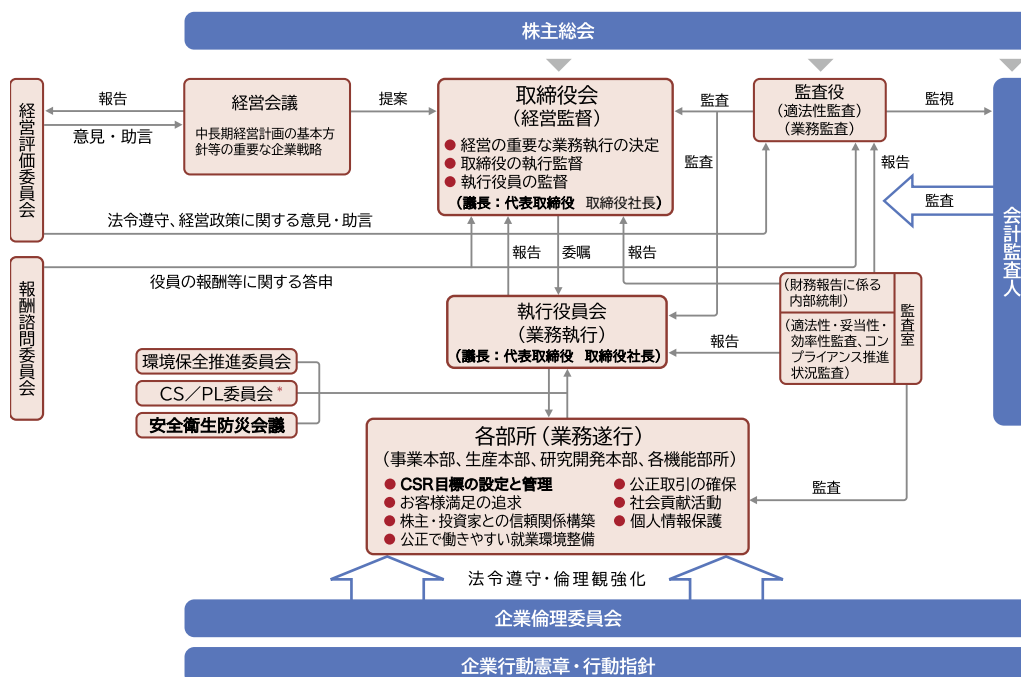
経営の監査・監視機能を充実させる取り組み

当社は、企業が果たすべき社会的責任、ステークホルダーからの信頼など社会通念上の視点から経営を客観的に評価するため、2003年10月に社外有識者で構成する「経営評価委員会」を設置し、コーポレート・ガバナンス体制のあり方、事業開発・製品開発の方向性などに関する委員の意見を経営に反映させています。2004年3月には執行役員制の導入に合わせ取締役の員数削減を行うことで、経営の意思決定機能と執行機能を強化し取締役会の機動性を向上させています。2006年3月には取締役会の監督機能をさらに強化するため社外取締役を2名招聘しています。同年12月には、役員報酬などの客観性および透明

性を高めるため、社外役員（社外取締役2名および社外監査役2名）で構成する「報酬諮問委員会」を設置しています。代表取締役と社外役員との定期的な情報交換を実施し、経営の監督・監視機能の充実に努めています。また、2013年1月には「社外役員の独立性に係る基準」を制定し、当社と特別な利害関係がなく独立性を確保できる人材を社外役員に招聘している旨を明示しています。

なお、当社株式などの大規模買付行為に関する対応策（買収防衛策）については、2009年に定時株主総会の承認を得て導入し、2015年の定時株主総会においても3年間の継続の承認を得ています。

●コーポレート・ガバナンス体制



【コーポレート・ガバナンスに関する報告書】

URL http://www.lion.co.jp/ja/company/about/pdf/abo_gov.pdf

*CS / PL 委員会

CS: Customer Satisfaction (お客様満足)

PL: Product Liability (製造物責任)

品質保証活動を推進するための部所横断型の委員会。

リスクマネジメントの推進

事業を行う上でのさまざまなリスクに対応する仕組みの整備

当社では、お客様に対して、安心・安全な製品を継続して提供するために、リスク統括担当役員を任命し、当社グループ全体のリスクを網羅的・総括的に管理しています。環境、品質責任、事故・災害に関するリスクについては、各種会議体を通じて対応策を検討し、必要に応じて執行役員会で審議し、リスク管理を行っています。各工場ではISO14001の認証を受け、品質管理および環境保全に積極的に取り組んでいます。天災・事故発生などによる物理的緊急事態が発生した場合は、緊急事態処理システムに従い、発生事実を社長、監査役などへ報告するとともに、対応状況について執行役員会・取締役会へ報告しています。

また、事業を行っていく上で起こりうるさまざまなリスクのうち、特に投資者の判断に重要な影響をおよぼす可能性のある主な事項として、以下の5点を挙げ、有価証券報告書に明示して公開しています。

- | | | |
|-------------|-------------|------------|
| 1. 製品の品質評価 | 3. 為替レートの変動 | 5. 地震等自然災害 |
| 2. 原材料価格の変動 | 4. 重大な訴訟等 | |

● 事業継続計画 (BCP)

当社は、大地震や感染症の蔓延(パンデミック)などが発生した場合でも、お客様に商品をお届けできるよう、被害の最小化と業務の継続をはかるための体制づくりを推進しています。

地震災害が発生した場合は、「地震災害対策マニュアル」、新型インフルエンザ等感染症によるパンデミックの発生が予見される場合には「新型インフルエンザ等感染症対策マニュアル」にしたがって対策本部を設置し、対応に当たります。災害の規模、被災状況によってBCP発動の是非を判断しますが、BCPが発動された場合は当社事業のうち、一般消費財の供給を最優先とした体制をとることとしています。

BCPはリスクマネジメントの一環として、毎年執行役員会に対応状況を報告しています。近年の感染症リスクの高まりを勘案し、既存の「新型インフルエンザ対応要領(2008年制定)」を全面的に見直し、2015年6月執行役員会にて「新型インフルエンザ等感染症対策マニュアル」として承認、改定しました。

内部統制システムの整備

業務の適正を監査する仕組みの強化

当社は、会社法および会社法施行規則に基づき、当社グループ各社の業務の適正を確保するための体制を整備しています。

また、金融商品取引法に基づく「財務報告に係る内部統制の評価および監査制度」については、全社レベル・業務プロセスレベルの統制の整備を行っています。

内部統制の有効性に関する評価は監査室が行い、結果を取締役社長および監査役に報告するとともに、取締役会でも定期的に報告しています。

2015年は評価の結果、当社の財務報告に係る内部統制は有効であると判断し、2016年3月に有価証券報告書とともに内部統制報告書を内閣総理大臣に提出しました。

● 内部監査

社長直轄の監査室が、健全な業務活動基盤の確立に向けて、各部所の業務について、適法性、妥当性、効率性、リスクマネジメントの視点から監査を行っています。

監査の点検・指摘結果については、社長への報告と、執行役員会にて年2回、監査結果を総括して報告することで、監査業務のPDCA管理と、業務執行部門との情報の共有化をはかっています。



国連グローバル・コンパクト

当社が2009年から参加する国連グローバル・コンパクト(UNGC)は、「人権の保護」、「不当な労働の排除」、「環境への対応」、そして「腐敗の防止」の4つの領域に関わる10の原則の実現を目指す企業・団体の自発的な取り組みです。グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン(GCNJ)にも加入し、参加企業のCSR活動推進を目的とした分科会活動にも定期的に参加しています。

【国連グローバル・コンパクト】URL <https://www.unglobalcompact.org/>

【グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン】URL <http://uncgjn.org/>



コンプライアンスの浸透

法令遵守・倫理観強化への取り組み

当社グループでは、企業倫理担当役員を委員長とする企業倫理委員会のもとで、コンプライアンス意識の啓発を積極的に行っています。コンプライアンスの基盤となる「ライオン企業行動憲章^{*1}」は、当社グループの全従業員に冊子で配付し、ホームページ上で社外にも公開しています。また、毎年プログラムに沿って、e-ラーニングなどの教育を定期的実施しています。

2015年に実施したe-ラーニングでは、「ライオン企業行動憲章」の閲読と同意に加えて、品質保証の基礎、就労管理の基礎、ソーシャルメディアのリスク、情報セキュリティ、情報管理体制、職場のハラスメント、インサイダー取引の基礎知識について学習しました。

●コンプライアンス意識調査アンケート^{*2}

当社は、グループ全従業員を対象に毎年、「コンプライアンス意識調査アンケート」を実施しており、今回で12回目となります。アンケート結果を経営層に報告するとともに各職場へフィードバックし、コンプライアンス体制の維持・強化につなげています。

2015年のアンケート（対象約3,935名の約98%の従業員が回答）では、職場環境の問題などの意見が寄せられました。

●ホットラインの周知

当社は、社内・社外の通報制度「AL（オールライオン）心のホットライン」を設置し、派遣社員を含む全従業員への周知をはかっています。

2015年は12件の相談・通報がありましたが、重大な不正行為と判断される事案はなく、すべての事案に適切に対応し、収拾しました。

【AL心のホットライン】

URL <http://www.lion.co.jp/ja/company/compliance/index.php>



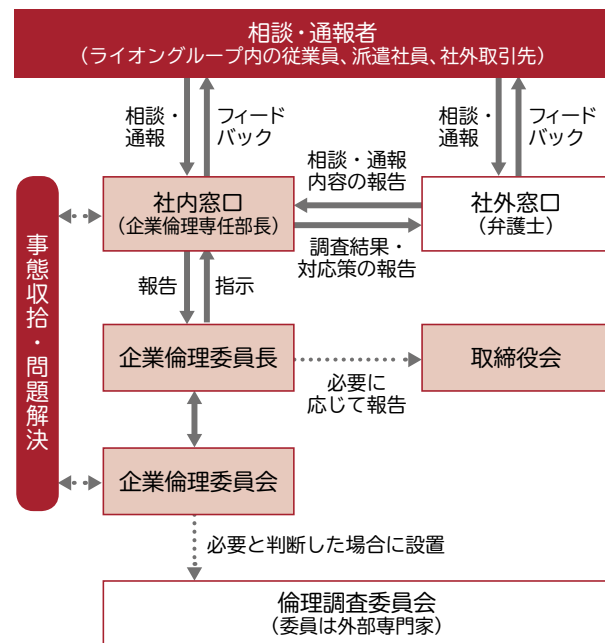
Webサイトのご紹介

活動を推進する仕組み（組織統治）

<http://www.lion.co.jp/ja/csr/management/>



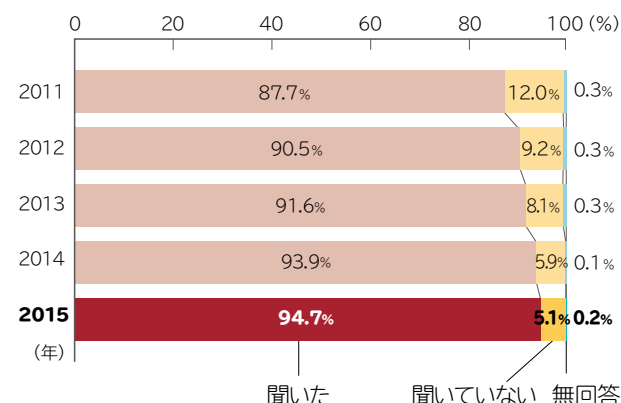
●「AL心のホットライン」の仕組み



●「AL心のホットライン」への相談・通報内容（2015年）

ハラスメント的行為	9件
人事・労務管理上の問題	1件
その他	2件

●アンケート結果のフィードバックを聞いた従業員の割合



*1 ライオン企業行動憲章の10原則

1. 基本的使命
2. 社会規範の遵守
3. 情報開示
4. 環境対応
5. 就業環境の整備
6. 社会貢献
7. 反社会的勢力との対決
8. 海外での貢献
9. 企業倫理の徹底
10. 問題解決

➡ 関連情報 p6

*2 コンプライアンス意識調査アンケート

ライオン企業行動憲章の遵守状況、前年のコンプライアンス意識調査結果に対するフィードバックの有無、ホットラインの認知などを無記名で回答するアンケート。



人権

目指す姿

人権を尊重する体制の整備

基本的な考え方

当社は「ライオン企業行動憲章」において、「人権の尊重」、「全ての法律、国際ルール及びその精神の遵守」を定め、「行動指針」においては、児童労働や強制労働を認めないこと、機会均等な雇用と就業者に対す

る公正な処遇を行うことや、購入先における人権についても示しています。また、2009年に国連グローバル・コンパクトの10原則の支持を表明しています。

人権に関する方針の周知

ライオン企業行動憲章・行動指針の浸透と定着

当社は「ライオン企業行動憲章」およびそれに基づく「行動指針」において、人権尊重に関する方針を示しています。役員、グループ会社社員、従業員、派遣社員に対する企業行動憲章の周知については、年1回、e-ラーニング、

あるいは文書による企業行動憲章の閲読と同意を行っています。また、企業行動憲章の浸透・定着状況を確認するアンケートも年1回行っています。

人権デューディリジェンス

バリューチェーンに沿った人権を尊重する仕組みの充実

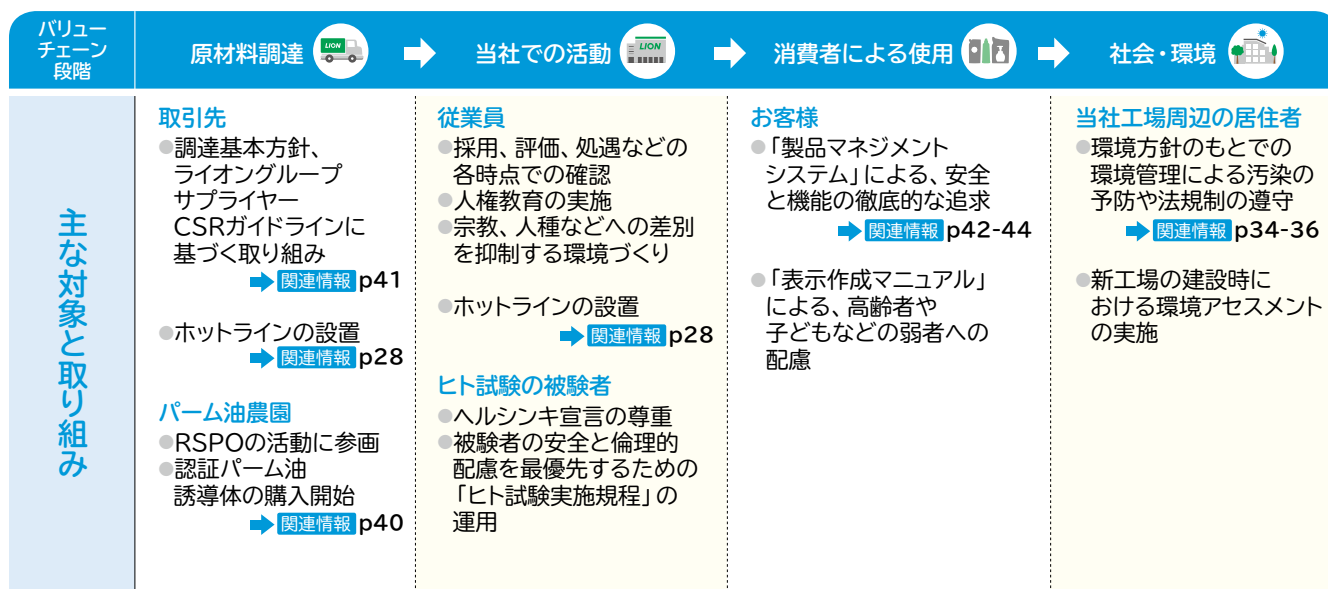
当社は、バリューチェーンに沿って当社の活動の人権に対する影響を把握し、報告、是正、フォローする仕組みの充実をはかっています。

Webサイトのご紹介

人を大切にするために（人権）
<http://www.lion.co.jp/ja/csr/humanrights/>



● 当社の人権に対する取り組みの全体像





労働慣行

目指す姿

従業員のモラルとモチベーションの向上による意識変革

基本的な考え方

当社は「ライオン企業行動憲章」において、「就業者の多様性と人格・個性を尊重した公正な処遇の実践」と「就業者のゆとりと豊かさを実現するための安全で働きやすい環境の確保」を定めています。また、「行動指針」においては、「ワーク・ライフ・バランスの推進

による柔軟な働き方ができるような労働環境の整備」や「優れた専門技術や知識の体得に努め、かつ高い目標に挑戦する就業者に対する最大限の手助け」、「就業者や就業者の代表との誠実な対話と協議」を示しています。

良好な労使関係のために

当社は、相互の理解と信頼に基づく健全な労使関係の推進と、会社ならびに労働組合の社会的使命と責任の自覚のもとで、企業行動憲章を遵守し、相協力して事業の発展と組合員の労働条件の維持向上をはかることを目的として、労働組合と労働協約を締結しています。その中で、会社は組合員の正当な組合活動の自由を

認め、これを理由として不利益な取り扱いをしないことや、会社と組合は、対等な立場で協議するために、労使協議会を設け、定期開催することを定めています。

当社ではユニオン・ショップ制^{*1}を採用し、労使協議会での経営状況の報告や職場環境についての意見交換など労使で積極的に活動し、労使関係の維持・向上に努めています。

人材育成

目標管理制度によるPDCA推進とさまざまな研修・能力開発機会の提供

● 機能別研修体系の整備

機能別研修においては、各職種における専門性強化に向けて施策を用意しています。2015年は、2014年に引き続き特にマーケティング部門において強化をはかりました。これまで各部門で活躍している人材からマーケティング部門の要員を配置してきましたが、さらなる強化に向けて、努力と学習を継続する熱意のある人材を発掘するプログラムを設計し運用しています。本プログラムでは、マーケティングの実務的な理論習得や消費者インサイト、競争戦略をふまえた企画設計の体系的な学習機会を提供するとともに、資質判定を行うことにより将来のマーケティング人材の育成を行っています。

● ライオンチャレンジカップイノベーション

2015年は、社員自らが、経営陣に「ライオンにとって夢のある提案」を伝えることができる「第1回 LION CHALLENGE CUP - Innovation」を開催しました。この大会では、社員の自己啓発意識を高揚し、社会に貢献していく事業領域を突き詰め、全社の未来の大きな成長につなげる「革新的な提案」を導き出すことを目的としています。予選を突破したテーマは本選にて経営陣に提案内容をプレゼンテーションします。

2015年は、42件のエントリーのうち、ゴールド賞1チーム、シルバー賞1チーム、ブロンズ賞2チーム、審査員特別賞1チームが選出されました。

*1 ユニオン・ショップ制

労働者が会社に雇用された際に、特定の労働組合の組合員になることが条件である労働協約。

多様な人材の活用

ビジネス環境の変化に迅速に対応する人材の活用

当社では、ビジネス環境の変化に迅速に対応する必要から、「ダイバーシティ（多様な人材の活躍推進）」に取り組んでいます。

「ダイバーシティ」は2010年の「多様な人材の活躍推進委員会*2」の設置から本格的に検討をはじめ、さまざまな人材が、より一層活躍するための人事施策を社員参加により企画・立案してきました。現在は人事部内に担当チームを設置しダイバーシティ推進に向けたさまざまな取り組みを行っています。

● 社内の職を知る機会の提供（キャリアフォーラム）

若手のキャリア開発を支援する目的で、「多様な人材の活躍推進委員会」で提案された施策です。将来のキャリア形成を描くヒントとなるよう、他部所の業務を知る機会を作り、現職担当者による部所、業務内容の説明を行っています。2012年にスタートし、これまで財務・法務・マーケティング・広報・CSR・営業部門などを取り上げました。

4回目の2015年は海外事業をテーマに、海外駐在の具体的な業務、過去のキャリアの活かし方、将来のためのアドバイスなどを紹介しました。



キャリアフォーラムの様子

● 地域限定社員制度の導入

臨時雇用者などの中で貢献度が高い優秀な人材の確保や正社員の多様な働き方の実現を目指し、2013年より地域限定社員制度を導入しています。全国を7ブロックに分けて勤務地をブロック内に留め、処遇や福利厚生は正社員に準じた内容になっています。2014年は8名、2015年は9名、2016年は9名が臨時雇用者などから登用されました。

*2 多様な人材の活躍推進委員会

当社が重視する「女性」、「定年雇用者」、「臨時雇用者」の3者について分科会を設け、それぞれの人材が活躍するための施策を企画・立案し、その内容を経営に促すための委員会。

● 女性活躍推進の取り組み

当社は企業価値創造において、女性の活躍は不可欠であると認識しており、積極的に女性活躍推進施策に取り組んでいます。

現在日本政府により、男女共同参画社会の実現に向け、女性活躍推進に向けたさまざまな目標や施策が推進されています。

当社においても、長期的に女性社員が活躍できるよう、育児関連制度の拡充や仕事と子育ての両立支援策の実施などを行っています。その結果、ライオン単体の平均勤続年数は、男性が18年3か月に対して、女性は16年6か月と長期的に活躍しています。また、今後の取り組みにより2020年には国内での女性マネジメント層*比率15%以上を目指しています。

当社の女性活躍推進法に基づく行動計画と女性活躍推進宣言は、厚生労働省委託事業「ポジティブ・アクション（女性活躍推進）情報ポータルサイト」にて掲載されています。

【女性の活躍推進宣言】

URL http://www.positiveaction.jp/declaration/add/search_detail/?id=1664

【当社の女性活躍推進法に基づく行動計画】

URL http://www.positiveaction.jp/pa/search/detail.php?company_id=1620

*当社は、管理的地位を担う人材をマネジメント層としており、役職的には係長以上に相当。



復職前セミナーの様子

● 障がい者の積極的な活用

障がいの有無の区別なく、個人の能力を発揮するため、働く環境の改善や職場全体でサポートする風土を醸成し、積極的な活用を進めています。

2015年には特例子会社準備チームを発足して障がい者の雇用を促進し、2016年3月には「ライオンともに株式会社」を設立してその雇用と活躍を推進しています。

ワーク・ライフ・バランスの推進

柔軟な働き方により仕事の成果を生み出す就業環境の整備

当社は、社員がワーク・ライフ・バランスを重視しながら、仕事の成果を生み出せるように、就業環境の整備を進めています。

●健康でいきいきと働ける職場づくり

2010年から長時間労働の削減と有給休暇の取得促進に取り組んでいます。2015年は、週1回の「ノー残業デー」および月1回の「ノー残業週間」を実施し全社平均(関係会社への出向者含む)の時間外労働は減少しました。引き続き労働時間管理に対する理解促進のため、全従業員に対してe-ラーニングを継続します。また、目標である有給休暇取得60%の達成に向けて、労使協定締結のもと、年3日間を計画的に取得する取り組みを実施しました。今後も取り組みを推進します。

●育児・介護支援制度

さまざまな制度の拡充と、社員への意識啓発の結果、女性社員の育児休業取得率は100%、男性社員も、幅広い部所で取得しています。さらに、育児支援Webサイトの開設、育児休業中のスキルアップ支援など、育児期のキャリア開発にも取り組んでいます。

[育児・介護支援制度]

URL http://www.lion.co.jp/ja/csr/employee/work_life/

●介護従事者支援施策

従業員が安心して働き続けることのできる環境整備のひとつとして、介護従事者への支援を強化しています。通常の年次有給休暇のほか、医療介護積立休暇(年次有給休暇失効分の積立)、介護休暇の半日単位での取得、介護休業365日(1日単位で取得可能)など、介護で休暇が必要な時の制度を整備しています。また、短時間勤務とフレックスタイム勤務を融合した新しい働き方(ショートタイムフレックス制度)を制度化しました。同時に、40歳以上を対象に介護支援WEBサイトを導入し、介護に関する心構えとしてのe-ラーニングなどを提供しています。

●在宅勤務制度

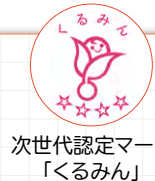
2015年2月に、働く場所を職場に限定しない柔軟な働き方として在宅勤務制度を導入し、業務の生産性向上とワーク・ライフ・バランスの改善に取り組んでいます。制度の理解と浸透をはかるため、説明会や個別の職場ヒアリングを繰り返し実施し、制度の利用促進効果の確認を行いながら拡充を進めています。

●次世代法への取り組み

当社は、次世代育成支援対策推進法に基づく行動計画を策定し、取り組んでいます。その結果、第1期から第4期まですべて計画を達成し子育てサポート企業の認定(くるみんマーク)を受けています。

次世代法第5期行動計画

第5期行動計画では、期間を3年間(2015年4月~2018年3月)に定め、4つの目標を掲げています。



目標1 計画期間内に、育児休業中社員のスムーズな職場環境のための支援策を実施する。

→育児休業中社員のキャリアと育児の両立を支援する
育児支援WEBサイトを導入(2016年2月)

→職場復帰前の集合研修を実施(2015年10月、2016年2月)
→育児休業者と上司向けの個別制度説明会を開始(2016年1月)

目標2 計画期間内に、女性活躍推進に向けた社内風土醸成の施策を実施する。

→第4回キャリアフォーラムを開催(2015年11月)

目標3 計画期間内に、男性の育児休業取得者を13名以上にする。

→6名取得済み(2016年3月時点)

目標4 計画期間内に在宅勤務制度の理解、利用を促進し、制度定着のための支援策を実施する。

→職場ヒアリング、個別説明会を実施

●社員関連データ(単体・出向者含む)

		2013年	2014年	2015年
社員数	男 性	2,316名	2,292名	2,268名
	女 性	722名	729名	758名
女性比率		23.8%	24.1%	25.0%
新入社員数 (新卒)	男 性	55名	59名	56名
	女 性	30名	25名	28名
定年退職者 再雇用	人 数	300名	289名	262名
	率	9.9%	9.6%	8.7%
臨時雇用者		330名	457名	461名
女性管理職*1	人 数	46名	52名	57名
	率	5.2%	5.9%	6.8%
障がい者 雇用	人 数	44名	43名	51名
	率	1.9%	1.8%	2.0%
育児休業 取得者	男 性	5名	6名	5名
	女 性	37名	37名	33名
育児短時間 勤務	男 性	0名	0名	0名
	女 性	43名	57名	58名
月平均時間外労働時間*2		10.8時間	11.7時間	11.0時間
年次有給休暇取得率*2		51.2%	50.8%	51.8%
平均勤続年数 (再雇用者除く)	男性	20.1年	19.8年	19.8年
	女性	17.6年	17.7年	17.4年
入社3年後 までの離職	人数	3名	2名	4名
	率	1.3%	1.0%	1.6%

*1 役職的には、課長以上に相当。

*2 昨年までは単体のみのデータでしたが、今年から対象範囲を単体および出向者に拡大。

関連会社の社員関連データはWebで開示しています。

URL <http://www.lion.co.jp/ja/csr/employee/various/>

従業員の健康管理の推進

従業員の自己管理の支援と安心・信頼して働ける健康な職場づくり

従業員の健康は「会社の健全な成長を支える経営基盤」との考えを基本とし、さまざまな施策を展開しています。健康指針を柱に、きめ細やかな健康管理活動を行っているのも当社の特徴です。

【健康指針】

URL <http://www.lion.co.jp/ja/company/about/health.htm>

● 健康管理への組織的な取り組み

当社は全社健康管理責任者（人事部長）、健康保険組合、健康サポート室との合同会議、「健康管理推進委員会」での議論をふまえ健康管理活動を進めています。その中でPDCA管理を行い継続的に改善をはかりながら、産業保健のノウハウを蓄積します。

● メンタルヘルスへの取り組み

当社では2004年に「メンタルヘルス基本方針」を制定し、健康診断後の全員面談や2006年からはストレスチェックを実施するなど、積極的にメンタルヘルス対策に取り組んでいます。2015年は98%の社員がストレスチェック^{*1}を受け、その結果は個人を特定できない形式で部所ごとに集計・分析し、担当役員へのフィードバックや、管理職教育での活用など、組織的なメンタルヘルスへの取り組みを継続しています。

● 歯科予防プログラム (ALOHA)

2002年度の定期健康診断より、公益財団法人ライオン歯科衛生研究所 (LDH) と協力して社員全員を対象とした歯科健診を導入し、口腔保健の改善に注力しています。

【ALOHA】 All Lion Oral Health Activity

ライオングループの労働安全衛生管理体制の充実

労働安全と設備安全を推進する仕組みづくり

当社では、「安全は、何事にも優先する」を基本に、厚生労働省の指針に基づく「労働安全衛生マネジメントシステム (OSHMS) ^{*2}」に防災を付加した独自の「安全衛生防災マネジメントシステム」を国内グループ会社も含め、構築しています。

● 労働安全

2015年の労働災害件数は関係会社を含め、前年の11件に対して21件となり、10件増加しました。休業災害については、前年と同数の3件となりました。災害件数増加の要因としては、若年層の作業経験と知識の不足が考えられます。

今後は課題の抽出とともに、安全に関する研修強化など

を通じ、安全意識の向上をはかります。

また、OSHMS運用管理規程・設備安全設計要領等を基本とした仕組みの強化や、生産設備の安全対策を推進し、重大災害の防止に向け、海外関係会社も含めたオールライオンでの取り組みを推進しています。

● 設備安全

近年、他社で発生したプラント事故は、安全管理の形骸化や作業員の技能・意識の低さに起因していると考察しています。そのため、当社ではハード（設備管理）とソフト（運転管理）の両面からのアプローチにより、中・長期的な視点で「設備安全の強化」に取り組んでいます。



Webサイトのご紹介

社員とともに（労働慣行）

<http://www.lion.co.jp/ja/csr/employee/>



*1 ストレスチェック

従業員の心理的な負担を把握するための検査（労働安全衛生法の改正により2015年12月に義務化された）。

*2 労働安全衛生マネジメントシステム (OSHMS)

PDCAにより継続的な安全衛生管理を自主的に進める仕組み。



環境

目指す姿

「環境対応先進企業」としての 持続可能な社会の発展への貢献

基本的な考え方

当社は2011年に経営ビジョン「Vision2020」を発表しました。そのビジョンのひとつである「環境対応先進企業」を目指すための全社方針として、新たな環境目標「Eco Vision 2020」を2013年に策定しました。「Eco Vision 2020」をはじめ、当社の環境活動に対する考え方を表したのが「ライオンの環境への想い」です。ここから生まれた環境スローガンが

「暮らし、まいにち、エコ。」です。今後も「低炭素社会の実現」、「循環型社会の実現」、「自然との共生」を目指した目標値の達成と合わせて、商品を通じたお客様への環境啓発などのコミュニケーションにも取り組めます。



【暮らし、まいにち、エコ。】

暮らし、まいにち、エコ。 URL <http://www.lion.co.jp/ja/csr/ecolion/>

環境方針

バリューチェーン全体で進める自主的・積極的な環境保全への取り組み姿勢

当社は環境方針を、「経済発展と環境保全が両立する持続可能な社会を創造していくため、自主的・積極的に行動する」という「ライオン企業行動憲章」の精神に基づいて定めています。

2013年には、「Eco Vision 2020」の策定に合わせて環境方針を改定しました。「低炭素社会の実現」、「循環型社会の実現」、「自然との共生」に対する当社の姿勢や海外への取り組み姿勢などを、より明確に表現しています。

環境方針

製品の開発から原材料などの調達、製造、流通、販売、お客様の使用・廃棄までのすべての過程で「地球温暖化防止のための低炭素社会の実現」、「資源の循環的・有効活用による循環型社会の実現」、「人々の健康や自然生態系、生物多様性を保全するための自然との共生」に配慮し、地球環境への影響を可能な限り減少させるよう、自主的・積極的に行動します。

1. 持続可能な社会をめざす

環境マネジメントシステムを推進し、継続的な維持、改善により地球環境の保全を行う。

2. 法のおよびその他の要求事項の遵守

環境保全に関する法規制や取り決めに遵守し、自主的な行動基準を設定して実行する。

3. 環境目的、目標の設定と実施の検証

国内外における企業活動の環境影響を的確に捉え、技術的・経済的に可能な範囲で、改善の目的および目標を設定するとともに、環境マネジメントプログラムを策定、実施し、その実施状況を定期的に検証する。

4. 環境配慮製品の開発

ライフサイクルアセスメントの視点に基づき自ら定めた「ライオン エコ基準」に則り、環境に配慮した製品開発を積極的に推進する。

5. お取引先との連携による環境負荷の低減

原材料調達先や外部生産委託先、販売先と連携し、仕入れからお客様への商品提供に至るまでのあらゆる段階で、環境負荷の低減に努める。

6. 自然との共生

生物多様性や大気・水環境に配慮した事業活動を行うとともに、自然環境保護活動に積極的に取り組む。

7. 全従業員への周知と環境保全活動の推進

関係会社を含め全従業員に環境方針を周知し、環境保全への意識高揚に努め、全従業員一体となって環境管理活動を推進する。

8. 情報公開の推進

事業を取り巻くすべてのステークホルダーとのコミュニケーションの推進に努める。また、この環境方針は自由な閲覧を可能にして、要望する全ての人々に提供する。

(2013年1月1日改定)

環境管理体制とマネジメントシステム

部所横断型の環境保全活動を進める仕組み

● 環境マネジメントシステム

当社グループの環境マネジメントシステムは、事業活動、製品やサービスが環境におよぼす影響を把握、評価、是正するとともに、環境保全活動を継続的に改善することを目的としています。

また、環境マネジメントおよび活動報告については、グローバルな環境対応を目指して体制の充実をはかっており、海外グループ会社のデータをホームページにて公開しています。

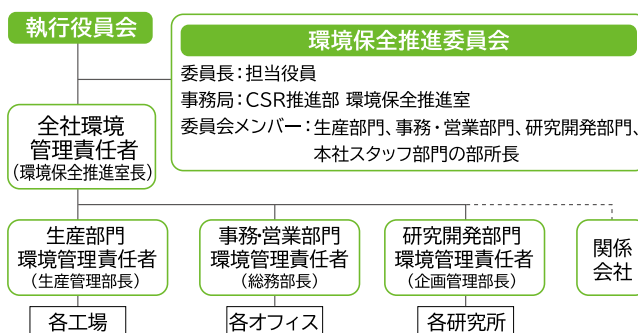
[関係会社工場環境負荷データ(海外)]

URL <http://www.lion.co.jp/ja/csr/report/pdf/overseas.pdf>

ISO14001認証取得状況

当社は2001年7月に全工場一括でISO14001の認証を取得しました。その後、日本能率協会審査登録センター(JMAQA)による3年ごとの更新審査において、マネジメントシステムが規格要求事項の基準に適合し、適切に運用が継続されていることが確認されています。国内および海外の生産系関係会社も含めて、全社的にISO14001の取得やISO14001に準じた運用を実践し、管理システムと環境保全活動を継続的に進めています。

● 環境管理体制



● 法規制の遵守

当社では、省エネ法*1および温対法*2、化管法*3、化審法*4、廃掃法*5など環境関連法規制の改正への対応については、行政や工業会などから提供される情報を環境保全推進室で収集後、化学物質関連法情報のイントラネット活用システムに登録し、関連する部門に周知・徹底しています。

また、独自の「廃棄物管理規程」などを定め、漏れのない管理体制を構築しています。2015年においても罰金、科料などを処せられるような違反はありませんでした。

汚染の予防

大気・水質に配慮した生産活動

当社は、窒素酸化物(NOx)、硫黄酸化物(SOx)およびばいじんや揮発性有機化合物(VOC)などの化学物質の排出量削減にも自主的に取り組んでいます。また、排水処理設備の安定化と定期的な保全により、化学的酸素要求量(COD)の低減にも努めています。

[生産系事業所環境負荷データ]

URL <http://www.lion.co.jp/ja/csr/report/>

化管法PRTR制度*6に基づく化学物質管理に関するデータは、ホームページ上に公開しています。

[2015年度PRTR対象物質の排出量・移動量(国内グループ)]

URL <http://www.lion.co.jp/ja/csr/env/enhancement/>

*1 省エネ法

「エネルギーの使用の合理化等に関する法律」の略称。

*2 温対法

「地球温暖化対策の推進に関する法律」の略称。

*3 化管法

「特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律」の略称。

*4 化審法

「化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律」の略称。

*5 廃掃法

「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」の略称。

*6 化管法PRTR制度

有害性のある化学物質の排出量などを把握し、集計・公表する制度。

ライオングループの化学物質管理の充実

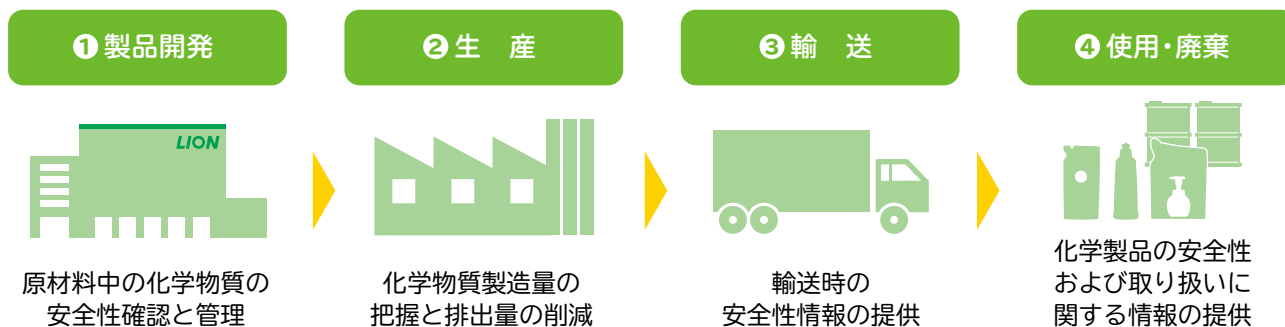
化学物質は、生活を便利で快適にする上で欠かせないものですが、適切な管理を怠り事故が起きた場合、人々の健康や生態系に大きな影響を与えるおそれがあります。当社では、関連法規の遵守はもちろん、独自の基準に基づき、

製品の開発から使用・廃棄までの各段階で、化学物質の安全管理を推進しています。

[化学物質の安全管理]

URL <http://www.lion.co.jp/ja/csr/env/enhancement/>

● 当社の化学物質管理



先進的な環境への取り組み

地球課題をふまえた環境目標「Eco Vision 2020」の推進

● Eco Vision V-2 (2015~2017年)の初年度の実績と今後の計画

Eco Vision 2020は、2012~2020年の9年間でV-1~V-3の3期3か年に分けて推進しています。2015年は、概ね計画を達成したV-1(2012~2014年)を経て

V-2の初年度に入りました。前年までと同様、ライオングループ従業員が一丸となって環境への取り組みを推進し、ほぼ順調に推移しています。

重要な5項目について

【国内の事業活動からの温室効果ガス排出量】

2015年の実績は41%削減(1990年比、売上高原単位)と前年の29%削減(同上)よりさらに削減することができました。生産設備の集約や全事業所で省エネ活動を実施することにより、削減を推進しました。今後も2017年目標、2020年目標の達成に向けて取り組みを進めます。

【国内の商品使用後の温室効果ガス排出量】

排出削減のために、商品のコンパクト化や石油原料からCO₂の増加につながらない植物原料への切り替えなどを進めています。2015年の排出量は49%削減(1990年比、売上高原単位)と前年より微増していますが、製品構成の一時的な変動によるためです。今後も目標に向けて、同様の取り組みを進めます。

【海外の事業活動からの温室効果ガス排出量】

毎年1%削減(2014年比、生産量原単位)の目標に対し、実績が0.4%削減(同上)と未達成でした。生産量が減少した事業所の影響でエネルギー効率が下がったことが原因です。今後は生産能力に応じた生産量の確保による効率的な製造等に取り組めます。

【国内の事業活動での水使用量】

2015年の実績は45%削減(2000年比、売上高原単位)でした。生産プロセスの変更や全事業所での節水活動および下記の工場の工程排水リサイクルが寄与し、2020年目標の35%以上削減(同上)を前倒しで達成しました。

【工場排水のリサイクル】

目標「2020年までに複数工場で工場排水をリサイクルすること」の達成に向け、2015年は千葉工場において工程排水リサイクル設備が完工し稼働を開始しました。2016年に本格稼働し、排水量はもちろん水使用量のさらなる削減も見込んでいます。

Eco Vision V-2 (2015~2017年)実績値とEco Vision 2020目標値表

項目			2015年実績値	2017年目標値	2020年目標値
低炭素社会の実現	温室効果ガス(国内)	事業所内	①事業活動からの温室効果ガス削減 売上高原単位 24%削減(2010年比) 41%削減(1990年比) 絶対量 43%削減(1990年比)	売上高原単位 23%削減(2010年比) 40%削減(1990年比) 絶対量 41%削減(1990年比)	売上高原単位 34%削減(2010年比) 49%削減(1990年比) 絶対量 40%削減(1990年比)
		事業所外	②商品使用後に排出される温室効果ガス削減 売上高原単位 2%削減(2010年比) 49%削減(1990年比) 絶対量 50%削減(1990年比)	売上高原単位 7%削減(2010年比) 52%削減(1990年比) 絶対量 51%削減(1990年比)	売上高原単位 9%削減(2010年比) 53%削減(1990年比) 絶対量 41%削減(1990年比)
	温室効果ガス(海外)	事業所内	③海外の事業活動からの温室効果ガス削減 生産量原単位 0.4%削減(2014年比)	生産量原単位 毎年1%削減(2014年比)	生産量原単位 毎年1%削減
		事業所外	④海外の商品使用後に排出される温室効果ガス削減 年間5.8万トン削減	—	年間10万トン削減
循環型社会の実現	水	事業所内	⑤事業活動での水使用量削減 売上高原単位 28%削減(2010年比) 45%削減(2000年比) 絶対量 47%削減(2000年比)	売上高原単位 15%削減(2010年比) 34%削減(2000年比) 絶対量 35%削減(2000年比)	売上高原単位 15%削減(2010年比) 35%削減(2000年比) 絶対量 23%削減(2000年比)
		事業所外	⑥商品使用時の水使用量削減 売上高原単位 16%削減(2010年比) 45%削減(2000年比) 絶対量 47%削減(2000年比)	売上高原単位 15%削減(2010年比) 44%削減(2000年比) 絶対量 44%削減(2000年比)	売上高原単位 17%削減(2010年比) 45%削減(2000年比) 絶対量 33%削減(2000年比)
	廃棄物	⑦事業所でのゼロエミッション*1	国内生産系全事業所でゼロエミッション継続	—	国内全事業所でゼロエミッション化
	排水	⑧工場排水*2のリサイクル	千葉工場における排水リサイクル設備完工	—	複数工場で工場排水をリサイクル
自然共生	調達	⑨生物多様性に配慮した植物油脂の調達	RSPO*3認証パーム油誘導体の購入実施	—	全購入パーム油誘導体のRSPO認証化
	生物多様性	⑩生物多様性保全活動の活発化	ライオン単体全工場での実施、一部関係会社・オフィスでの実施	—	国内全事業所での実施
啓発	社会への意識啓発	⑪お客様への環境啓発活発化	啓発活動へのお客様参加人数の1.6倍増(2010年比)	啓発活動へのお客様参加人数の1.8倍増(2010年比)	啓発活動へのお客様参加人数の倍増(2010年比)

*1 廃棄物総発生量の再資源化率を99%以上とする。ただし、再資源化の残さは含まない。

*2 生産工程排水。





*3 Roundtable on Sustainable Palm Oil (持続可能なパーム油のための円卓会議)。

● 自然との共生

洗剤の使用と関係のある河川の発泡や富栄養化などの水環境問題に、古くから率先して対応してきた当社は、原材料調達から廃棄までのすべての段階で生物多様性に配慮してきました。しかし、将来にわたり生物多様性の恵みを享受するためには、地域社会などと連携して生物多様性の保全に取り組み、その恵みを使い果たすことのないよう、持続可能な利用を進める必要があります。また、生物多様性に配慮した製品を通して生活者のライフスタイルの変化を促し、自然共生社会の実現に向けて貢献することが重要です。

そこで当社は、バリューチェーンに沿って、事業活動で利用している天然資源や事業の生物多様性への影響を把握し、リスクの低減と機会の拡大につながる生物多様性保全活動を行うことで、事業を通じて持続可能な社会の発展に貢献します。また、環境教育の一環として、従業員一人ひとりが生物多様性保全活動に参画することにより、生物多様性保全に対する意識を全事業所に浸透させます。

当社の生物多様性保全に配慮した事業活動の全体像

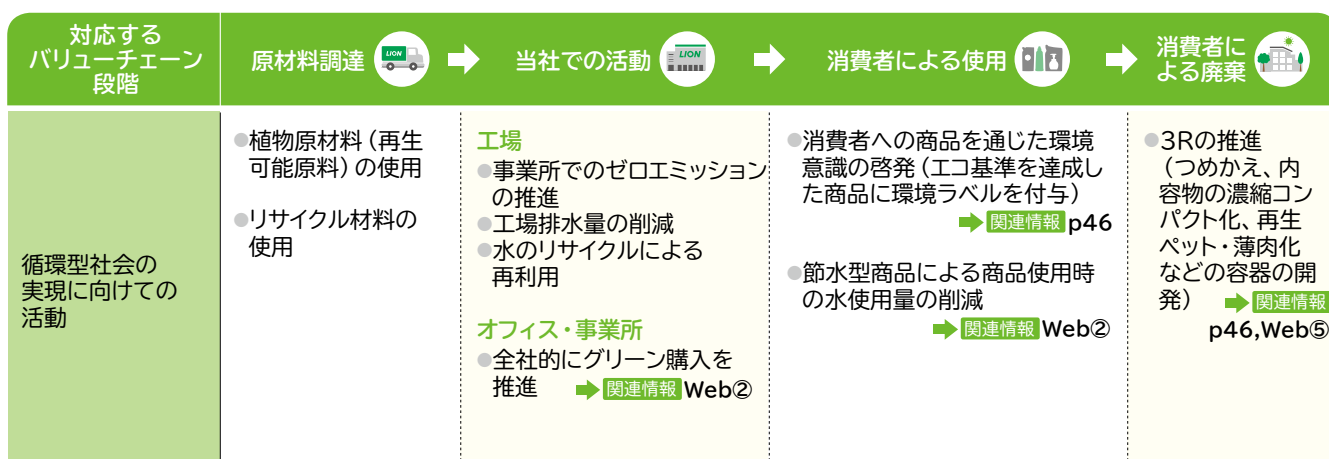
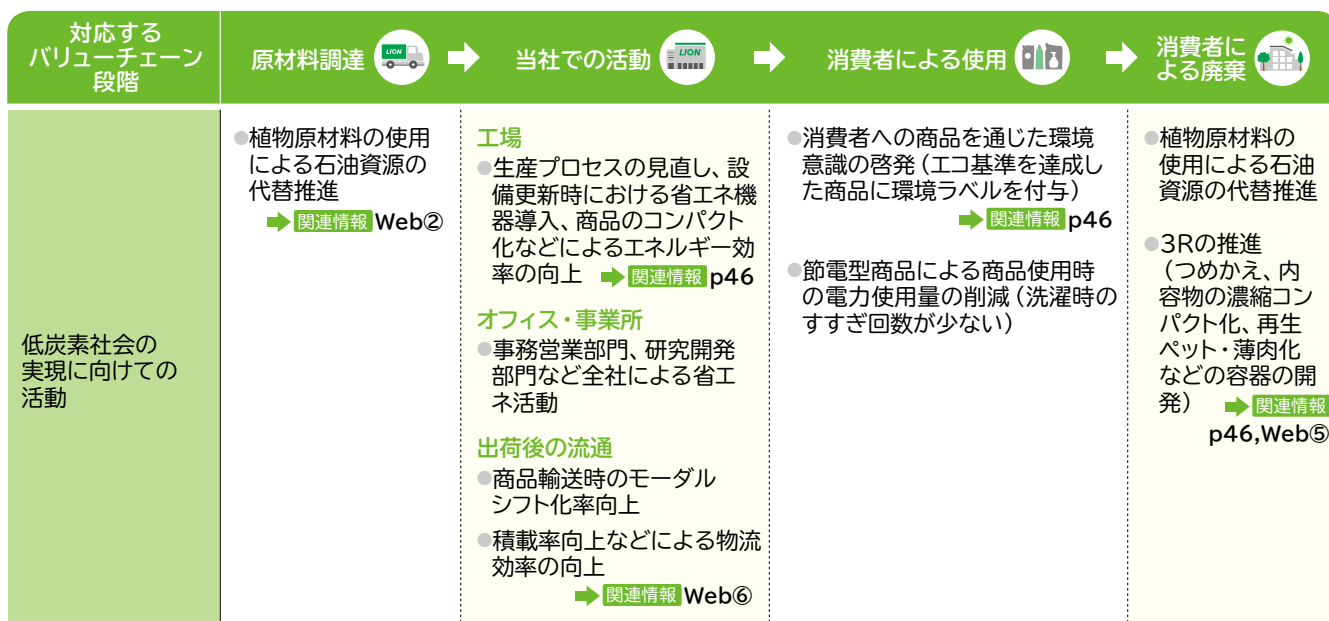
当社が依存している生物多様性		原材料生産地の流域*生態系	各工場が立地する流域生態系	消費者が生活する流域生態系	
対応するバリューチェーン段階		原材料調達 	生産 	消費者による使用 	消費者による廃棄 
当社が利用している主な天然資源		●使用原料となる植物（アブラヤシなど）	●工場で使用する冷却水、設備洗浄水などの原水	●商品使用時の上水	—
当社の活動が生物多様性に与える主な影響		●パーム油農園の自然環境や地域社会への影響（熱帯雨林の違法伐採による水の汚染や野生生物の生息地への影響など）	●工場による地下水などの取水による、周辺の自然環境や地域社会への影響 ●工場からの排水による周辺の自然環境や地域社会への影響 ●工場で使用する光や香りなどによる周辺の自然環境や地域社会への影響	●消費者の取水による自然環境や地域社会への影響	●消費者の排水や包装材料の廃棄物による自然環境や地域社会への影響
生物多様性保全活動	リスクの低減につながる活動	●持続可能なパーム油の調達の推進（RSPOへの参加、RSPO認証油の購入） ➡ 関連情報 p40	●浄化技術を組み合わせた排水の放流による河川などの生態系保全 ●工場廃棄物の削減 ➡ 関連情報 Web② ●工場の水使用量の削減 ➡ 関連情報 Web②	●節水型洗剤の開発 ●生分解性の高い洗剤の開発 ➡ 関連情報 Web②	●界面活性剤の環境への影響調査 ➡ 関連情報 Web①
	機会の拡大につながる活動	—	●工場が立地する流域での生物生息地の保全とモニタリング（アカウミガメ保全活動、ビオトープ整備活動、里山整備活動など） ➡ 関連情報 Web④	●水・自然環境の配慮に関する普及・啓発活動（「ライオンの森」の森林整備、「雨活アイデアコンテスト」の実施、「日本水環境学会」を通じた水環境研究支援） ➡ 関連情報 p49, Web③、④	●3Rの推進（つめかえ、内容物の濃縮コンパクト化、再生ペット・薄肉化などの容器の開発） ➡ 関連情報 p46, Web⑤

* 流域：水でつながる森林、河川、里山、干潟、海浜などの生態系。

● 低炭素社会・循環型社会の実現

当社は、原材料調達から、廃棄までのすべての段階で、温室効果ガスの排出量削減や資源の循環利用・有効活用を進めています。詳細なデータはWebサイトに開示しています。今後も低炭素社会・循環型社会の実現に向けて取り組みを推進していきます。

当社の低炭素社会・循環型社会の実現に向けた事業活動の全体像



Web① [界面活性剤「MES」、「MEE」などの環境への影響調査]

URL <http://www.lion.co.jp/ja/csr/env/biodiversity/>

Web② [循環型社会の実現] URL <http://www.lion.co.jp/ja/csr/env/resources/>

Web③ [自然保護活動] URL <http://www.lion.co.jp/ja/csr/community/conservation/>

Web④ [生物多様性保全への取り組み] URL <http://www.lion.co.jp/ja/csr/biodiversity/>

Web⑤ [容器・包装削減のための3R] URL <http://www.lion.co.jp/ja/csr/consumer/3r/>

Web⑥ [温室効果ガス削減(国内)] URL <http://www.lion.co.jp/ja/csr/env/climate/>



Webサイトのご紹介

地球環境のために（環境）

<http://www.lion.co.jp/ja/csr/env/>

暮らし、まいにち、エコ。

<http://www.lion.co.jp/ja/csr/env/ecolion/>





公正な
事業慣行

目指す姿

バリューチェーン全体での CSR活動の推進

基本的な考え方

当社は「ライオン企業行動憲章」、「行動指針」に則り、「公正、透明、自由な競争、ならびに適正な取引」および「政治・行政との関係における健全で正常な関係の維持」に努めるとともに、取引先における法令遵守

についても要請しています。さらに、2009年に国連グローバル・コンパクトの10原則の支持を表明し、贈収賄などの腐敗の防止への姿勢を明確にしています。

CSR調達の推進

持続可能な原材料調達とサプライヤーへのCSR活動の働きかけ

当社は、バリューチェーンにおける取り組みにおいて、原材料メーカーや生産委託先との連携を強化することが重要な課題のひとつであると考えています。事業活動の環境や社会に対するマイナスの影響を低減させ、お互いの事業を持続的に発展させるため、取引先と当社とがCSR活動を深化させることが必要です。

また、当社が独自に開発した植物由来の洗剤原料である環境対応型界面活性剤「MES」に使われているパーム油については、持続可能なパーム油の調達を推進することが重要です。

【「MES」の優れた特長】

URL <http://www.lion.co.jp/ja/csr/env/resources/>

● 持続可能なパーム油の調達を目指して

当社は、カーボンニュートラルな原料として植物原料の活用を積極的に進めており、その植物原料のひとつとして、世界で最も生産量の多い植物油であるパーム油を使用しています。パーム油は主にマレーシアやインドネシアで生産されています。

パーム油は生産性が高く年間を通じて収穫できることから生産量は年々増加していますが、生産地においては急激な生産拡大にともない、新規農園開発のための熱帯雨林の伐採やそれにとまなう野生生物の生息地の縮小などの問題が生じています。また不適切な農園経営による、健康や安全への配慮が乏しい劣悪な労働環境や、低賃金、移民労働者の不当な扱い、児童労働など、社会的公正を欠くさまざまな労使問題も指摘されています。

このような問題の解決に向けた「持続可能なパーム油のための円卓会議(RSPO*1)」に、当社は2006年から参画しています。2012年には、パーム油が納入されるライオンケミカル(株)オレオケミカル事業所が、RSPO認証パーム油の取り扱いができる工場としてサプライチェーン認証システム審査に合格し、認定を受けました。これに基づいて当社は2012年からRSPOの認証が得られたパーム油の調達を開始しています。当社は2015年末までに、使用するパーム油をすべて認証油に切り換えることを目標に掲げ、2014年7月より購入パーム油を全量認証油化し、目標を達成しました。また、2020年に向けた新たな目標を下記のとおり設定し、2015年目標の通り、RSPO認証パーム油誘導体の購入を開始しました。

目標

2015年：RSPO認証パーム油誘導体の購入開始
2020年：パーム油誘導体全量をRSPO認証化

今後も持続可能なパーム油の調達に向けて取り組みます。



ライオンケミカル(株)の
RSPOサプライチェーン認証

*1 RSPO

Roundtable on Sustainable Palm Oil (持続可能なパーム油のための円卓会議) URL <http://www.rspo.org/>

RSPOでは、「環境に対する責任と資源及び生物多様性保全」「新規プランテーションにおける責任ある開発」「農園、工場の従業員及び、影響を受ける地域住民への責任ある配慮」などの持続的なパーム油生産に求められる8つの原則と43の基準を定めており、これを満たして生産されるパーム油のみを持続可能なパーム油として認証している。

● 原材料メーカーや生産委託先とのCSRの推進

当社は、責任ある調達活動を推進するため、原材料サプライヤーおよび生産委託先へ「ライオングループサプライヤーCSRガイドライン*2」に基づくセルフチェックを依頼しています。人権・労働、環境、公正な事業慣行、消費者課題、コンプライアンスに関するサプライチェーンにおけるリスク回避に向けた仕組みづくりを推進しています。

2014年はセルフチェックをすべてWeb上で実施できるようオンライン化し、より効率的に取引先が回答できるようにしました。また、結果のフィードバックを回答いただいた取引先に送り、継続的にCSR調達を推進できる体制を確立しています。

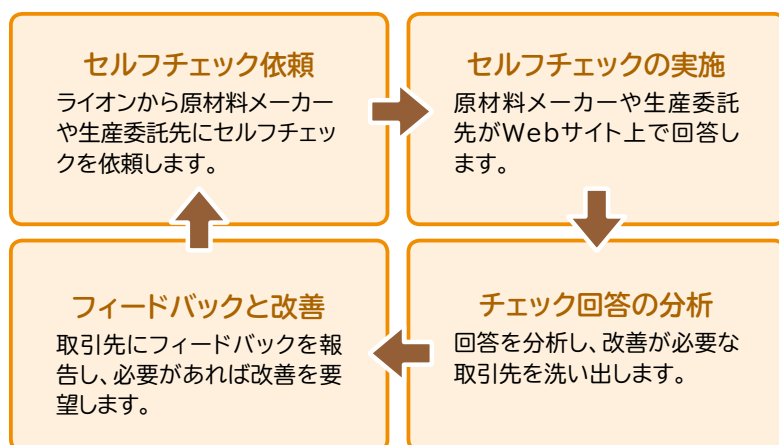
今後も取引先とともにCSR活動の取り組みを推進します。

● CSR調達の取り組み年表

2005年	原材料や製品の適正な調達のための「購買に関する基本方針」を制定。
2008年	社会面、環境面への配慮をより明確にした「調達基本方針」を制定。国内外の原材料メーカーや生産委託先にコンプライアンス、製品サービスの品質・安全性、環境配慮、労働・人権、公正な取引に関する企業活動のアンケートを実施。
2013年	「調達基本方針」を改定し、法令遵守、環境保全、人権尊重などからも取引先を選定する姿勢を明確化。原材料メーカーや生産委託先に期待するCSR活動を示した「ライオングループサプライヤーCSRガイドライン」を制定し、取引先に自社のCSR活動のセルフチェックを依頼。

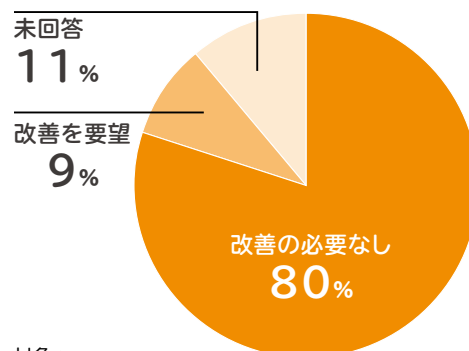
〔調達基本方針〕URL <http://www.lion.co.jp/ja/company/compliance/procurement.php>

● セルフチェック依頼～フィードバックのフロー



※CSRの重要性を取引先に理解していただくため、セルフチェックの依頼文書において、CSRを取りまく情勢の説明を記載するなど工夫をしています。セルフチェックは取り組みの程度に応じた3段階のチェック基準と用語解説を設けています。

● ライオングループサプライヤーCSRガイドラインに基づくセルフチェック全体集計結果



対象：
ライオン国内グループの
原材料メーカー・生産委託先、
計633社（国内：544、海外：89）

結果概要

- すべての項目について改善の必要がない取引先は80%、1つ以上の項目について改善を要望した取引先は9%、未回答は11%でした。
- 未回答の取引先に対しては、状況のヒアリングなどを通じて協力を要望しています。



Webサイトのご紹介

正しい事業活動のために（公正な事業慣行）
<http://www.lion.co.jp/ja/csr/businesscustom/>



*2 ライオングループサプライヤーCSRガイドライン

以下に示す5主題、21項目のガイドライン。

- 1.人権・労働 3.公正な事業慣行 5.コンプライアンス
2.環境 4.消費者課題

URL 日本語 <http://www.lion.co.jp/ja/csr/businesscustom/valuechain/pdf/jpn.pdf>
英語 <http://www.lion.co.jp/ja/csr/businesscustom/valuechain/pdf/eng.pdf>
中国語 <http://www.lion.co.jp/ja/csr/businesscustom/valuechain/pdf/cn.pdf>



消費者課題

目指す姿

安全で安心な商品づくりによる お客様満足の実現

基本的な考え方

当社は、ものづくりのはじめから、お客様が商品を使い終わるまでのすべての段階で品質保証活動を推進し、お客様に満足していただける商品をお届けします。具体的には、製品企画、製品開発、生産、販売、お客様対応という企業活動のすべての段階においてポイントを定め、お客様満足を追求しています。

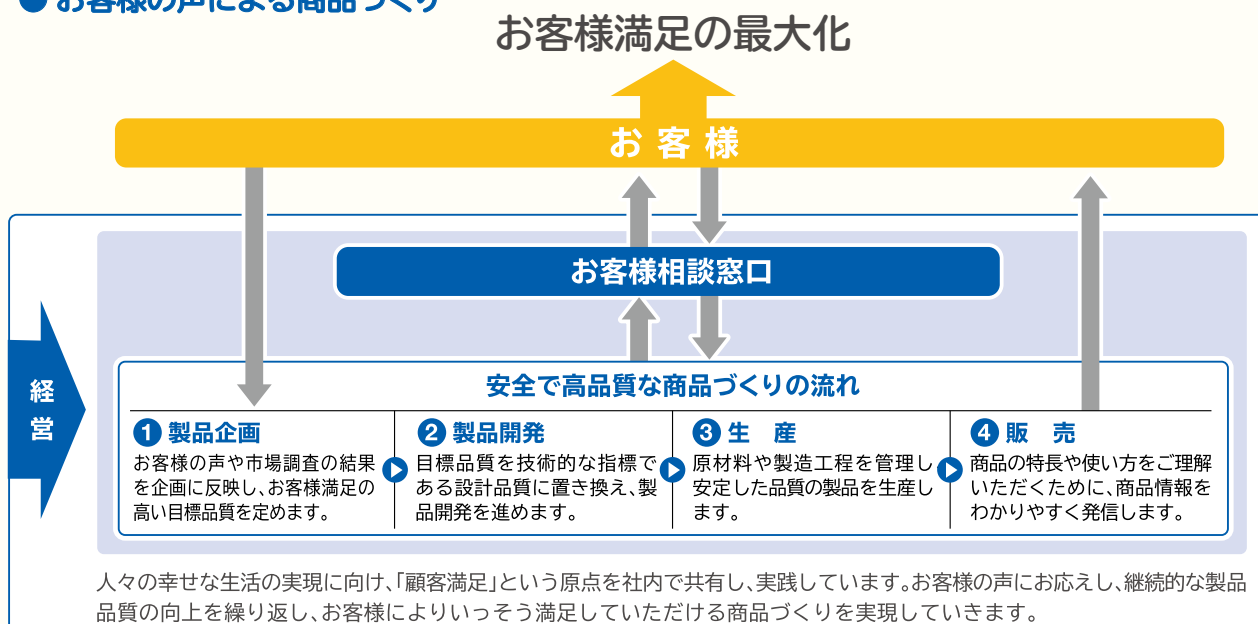
お客様からいただいた貴重なご意見などをもとに、ニーズをしっかりと把握して製品を企画し、製品開発

段階では、機能・性能などの7つの指標で品質を検証するとともに、お客様にとって「読みやすい」、「わかりやすい」表示を検討しています。

生産段階では、各工程で品質管理を徹底し、検査に合格したものを出荷します。出荷の際にはロット管理を徹底し、販売後の管理にも役立てています。

さらに卸店・販売店への商品説明や試供品の配布などを通じて、さまざまな情報を発信しています。

● お客様の声による商品づくり



ライオングループの品質保証体制の充実

国内・海外における、安全で高品質な商品づくりの仕組みの充実

「日々の暮らしに役立つ優良製品の提供」を実践するために、2008年に制定した「品質方針」に基づく品質保証体制を整え、お客様のご要望に応える安全で高品質な商品づくりを推進しています。2014年に、日用雑貨から医薬品、食品までの広範囲な分野に加え、海外グループ会社を含めたオールライオンの品質保証体制および開発支援体制

を構築するため、「薬事・品質保証部」（薬事部と品質保証部を一本化）を設立しました。機能性食品事業の伸長や国内外のグループ会社の事業規模の拡大にともなって多様化するお客様の要望や、社会的な品質要求レベルの高まりに応え、安全で高品質な商品をお客様にお届けします。

● 安全で高品質な商品づくり

① 製品企画 お客様により満足していただける商品を企画

● お客様の声



● マーケティング リサーチ

市場分析
お客様研究



● 分析/検討



● 企画提案

製品企画書
の作成

・マーケティング
リサーチ結果
・コンセプト
・目標とする
品質レベル

● 企画内容の審議・承認

製品企画会議

執行役員会



② 製品開発 品質・安全に留意した製品の具現化

● 内容物・容器の検討 品質の検証

7つの指標

- ①機能・性能
- ②使用性
- ③安全性
- ④安定性
- ⑤環境適合性
- ⑥外観（デザインを含む）
- ⑦法令・自主基準の遵守



● 表示の検討・確認



● 開発結果の審議・承認

生産技術会議

開発結果の審議・承認

製品企画会議

企画製品化の審議・承認

執行役員会

製品化の決定



品質確認検討会

開発着手時、目標品質の妥当性や、
開発の検討に必要な事項を確認します。…… 開発終了時、開発品の
妥当性を確認します。

プロセス安全検討会

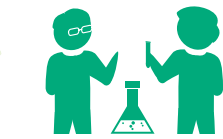
製造工程の安全確保を
確認します。

③ 生産 量産体制での品質確認

● 生産導入準備



原材料の品質を確認します。



試験生産での品質を評価します。
市場の受け入れ性を調査します。

● 本生産



各工程での
品質管理を実施します。

● 保管（出荷）



製品の鮮度を管理します。

④ 販売 商品品質の情報提供



お客様に商品の特長や
使い方をご理解いただく
ために、卸店・販売店に
情報を提供しています。



店頭での商品情報の掲示
や試供品の配布、新聞・テ
レビ、ホームページなどを
通じて情報発信を行って
います。

● 安全・安心への取り組み

お客様に商品を安心してお使いいただけるよう、原材料および商品使用時の安全性について評価しています。

原材料の安全性

原材料は、まず安全性を調査確認した上で、さらに一定の品質を確保するためにサンプル評価や相手先調査などを実施後、使用の可否を決定します。使用に際しては、医薬品・食品、医薬部外品・化粧品、雑貨に区分し、それぞれの区分に見合った検査項目と試験法に基づいて品質検査を実施後、使用しています。

商品使用時の安全性

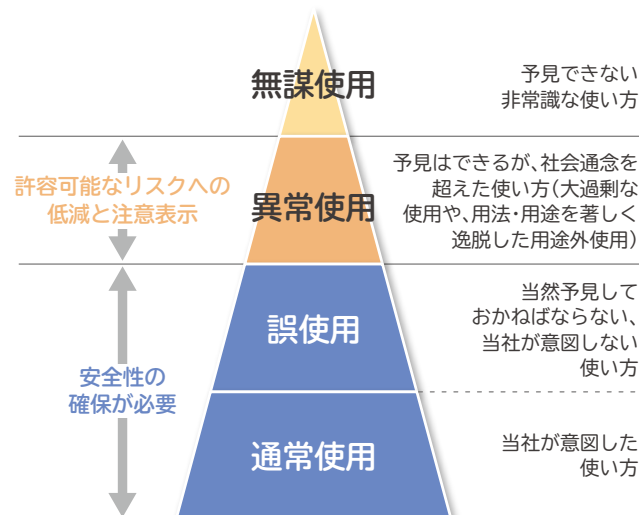
お客様のさまざまな商品の使い方や弱者の方々に配慮し、製品設計にてリスクを回避するという考えのもと、製品の安全性評価を実施しています。

評価はチェックシートを用い、「通常使用」～「誤使用」までの安全性が製品設計にて確保できているかを確認します。「異常使用」の場合であっても、リスクの低減が可能なかどうか、リスクは許容できるかどうかを評価し、必要に応じて注意表示を十分に行うなど製品の安全性確保へ反映させています。

また、関連する部門から構成される品質確認検討会において、商品の使用に関わる被害の防止、安全性を確認すべき項目の抜け防止を目的に、お客様の使用場面を想定した視点からのチェックを実施しています。

万が一の製品トラブルが生じた場合に備え、製品リコールなどが迅速にできるよう社内体制を整備しています。

● 安全性確保の範囲



● お客様の声にお応えする取り組み

お客様からいただいたご相談は、製品の改良や新しい製品の開発、サービスの向上に活かすために、厳重な個人情報管理体制のもとでデータベースに登録した後、個人情報を除いて情報共有化システムにて全社で共有しています。なかでもお客様満足に影響を与えられるものはVOCデイリーレターとして経営層に日々報告し、お客様視点の把握や企画部門を中心に改善策の早期検討・早期対応による品質向上に努めています。2015年は240件のVOCデイリーレターを発信しました。また、より積極的にお客様視点を事業活動に活用していくため、新システムを導入し、電話やメールなどで寄せられるお客様の声のみならず、SNSなどからも生活者の声を幅広く集め、解析が行える環境を整備しました。さらに、お客様の声の解析および発信を専任で行う組織を設け、各部門への情報発信力を強化しました。

[VOC] Voice of Customer(お客様の声)

[SNS] Social Networking Service(Facebook、Twitterなど)

バルサン氷殺ジェット回収状況

『バルサン 飛ぶ虫氷殺ジェット』『バルサン 這う虫氷殺ジェット』は、引火事故が発生し、2007年8月27日より自主回収を実施しております。2016年2月末現在、148万本(回収率45.7%)を回収しております。お手元に当該製品をお持ちの方は、回収にご協力くださいますようお願い申し上げます。



バルサン氷殺ジェット回収専用 お客様相談窓口

電話(フリーダイヤル): 0120-670-225
受付時間: 午前9時～午後5時
(土・日・祝日、年末年始、夏季休暇を除く)

消費者庁からの広告表示に関する 勧告について

2015年9月15日から11月27日までの間に日刊新聞紙に掲載した、当社商品『トマト酢生活 トマト酢飲料』の広告表示において一般消費者の誤認を引き起こす広告を掲載したとして、消費者庁より勧告を受けました。

当社は、この勧告を真摯に受け止め、広告出稿時の管理体制をより一層強化し、今後も推進していきます。

くらしに役立つ生活情報の発信と啓発活動

健康で快適な生活に貢献する
生活情報づくりと発信

ライオン快適生活研究所では健康で快適な生活に寄与する生活情報づくりと発信の拡大を目指し、生活者の皆様と積極的にコミュニケーションをはかっています。



お洗濯マイスターによる実験の様子

●生活情報サイト「Lidea」を活用したお客様とのコミュニケーション

Lideaは、「日々の暮らしを快適にする」そして「ココロが彩られるような楽しい」idea(=知恵や情報)を皆様と共有するための生活情報メディアです。

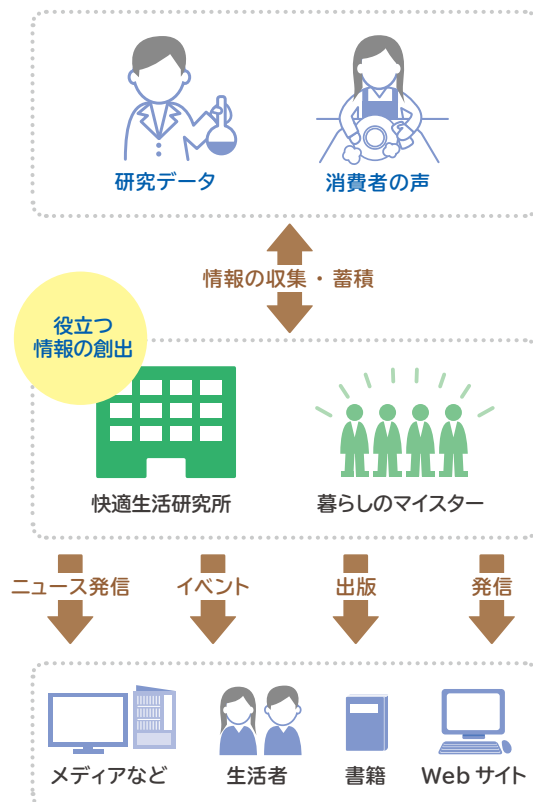
Idealは2つのコンテンツから成り、専門知識を持つ5人の生活情報のスペシャリスト「暮らしのマイスター」が中心となって、皆様のくらしに寄り添った確かな情報を提供しています。



ライオン Lidea

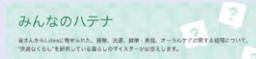
檢 三

URL <https://lidea.today>



くらしの課題解決コンテンツ

暮らしのマイスターが、
日々のくらしで生じる疑問や悩みを
解決する方法をお届けします。



生活エンタメコンテンツ

新しいライフスタイルの提案や、自治体や企業とのコラボレーションにより、暮らしを彩るアイデアを提供します。



Topics

生活者向けCSRコミュニケーション冊子の発行

生活者向けのCSRコミュニケーション冊子「数字で見る 暮らしのたいせつ」を2016年3月に発行しました。この冊子は生活者にライオンのCSRを楽しく、簡単に理解してもらうことを目的に制作しました。生活者のくらしに密接に関係のあるさまざまな社会課題を、数字を使って示すとともに、ライオンが商品・啓発活動・情報発信を通じてその解決に取り組んでいることを紹介しています。あわせて、生活者のくらしに役立つ情報を掲載しています。

生活者との接点がある、清潔・健康・快適に関するさまざまなイベントで配付しています。



「数字で見るくらしの
たいせつ」

URL <http://www.lion.co.jp/ja/csr/report/>



「口腔保健の社会課題」

持続可能な社会の発展に貢献する商品・情報の提供

社会・環境への負荷の小さい商品の開発と啓発活動

当社は、容器・包装材料削減のための取り組みとして、3R（Reduce：使用量削減、Reuse：再利用、Recycle：再資源化）を積極的に推進しています。

容器・包装材料の削減については、製品のライフサイクルの視点から評価項目を設定した「ライオン エコ基準」の「材料調達」、「物流」、「廃棄」の各段階に、該当する評価項目を定めています。

【ライオンエコ基準】

URL <http://www.lion.co.jp/ja/csr/ecolion/>



● 商品を通じた環境コミュニケーションの推進

当社は、生活者に商品を通じて環境配慮の重要性を啓発するため、2014年より「ライオン エコ基準」をクリアした商品に、「環境ロゴ」と環境説明を併記した「環境ラベル」を順次付与しています。

【暮らし、まいにち、エコ。】（エコ商品の紹介）

URL <http://www.lion.co.jp/ja/csr/ecolion/>

● 「環境ラベル」付与商品例



『CHARMY Magica』本体



『トップスーパーNANOX』本体・つめかえ



『トッププラチナクリア』

情報セキュリティ対策の推進

個人情報保護と情報漏えい予防への取り組み

当社は「個人情報保護法」に準拠した「個人情報管理規程」「情報取扱に関する基本方針」「情報管理規程」「情報セキュリティ規程」のほか、ソーシャルメディア（ソーシャルネットワークサービス、ブログなど）を従業員が利用するにあたり、適切な情報発信に努めるため、「ライオングループ ソーシャルメディアポリシー」および遵守すべき基本的なガイドラインを定め、個人情報保護と情報セキュリティ

の徹底をはかっています。

2015年には、社内の情報管理体制の強化を目的に、関連規程の改定や、ソーシャルメディアのリスク、情報セキュリティ、情報管理体制に関するe-ラーニングを全従業員が実施しました。

【ライオングループ ソーシャルメディアポリシー】

URL <http://www.lion.co.jp/smp.htm>

Webサイトのご紹介

お客様とともに（消費者課題）

<http://www.lion.co.jp/ja/csr/consumer/>





コミュニティへの
参画および発展

目指す姿

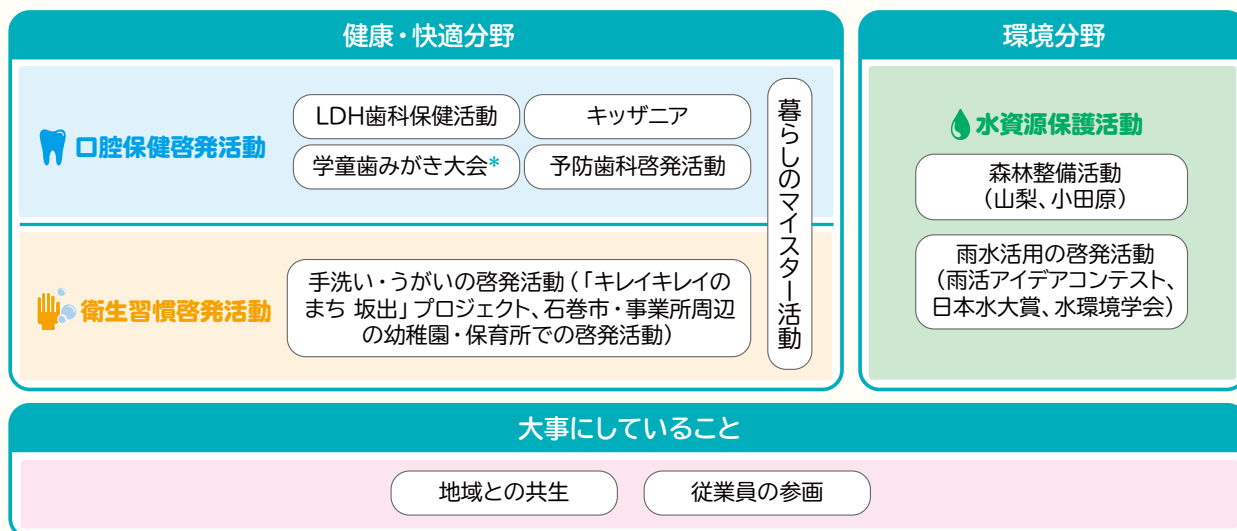
社会や地域との共存共栄／ 健康・快適・環境分野での社会の発展への貢献

基本的な考え方

当社は「事業を通じて社会に貢献する」という創業者小林富次郎の精神を受け継ぎ、一人ひとりの価値ある未来につながっている今日のお役に立つため、健康で快適な社会・環境に貢献する活動に取り組んでいます。また、当社の事業を継続するためには、事業所の所在地などゆかりのある地域との共生が必要である

ことから、地域の住民の方々や行政、市民団体などと連携をはかり、地域社会の課題解決に取り組んでいます。さらに、事業に関連した社会・環境貢献活動に従業員一人ひとりが参画する機会を増やすことで、高い社会・環境意識をベースに新しい価値を生み出す人材の育成につなげます。

● 当社の社会・環境貢献活動



[キッズニア、ライオンアワード] URL <http://www.lion.co.jp/ja/csr/community/oral/>

[水資源保護 水環境研究への支援、市民活動への支援] URL <http://www.lion.co.jp/ja/csr/community/conservation/>

健康・快適分野

健康・快適な生活習慣づくりに役立つ商品の提供とともに、口腔保健、衛生習慣の啓発活動を行っています。

歯科医院などでの「プロケア(プロフェッショナルケア)」と毎日の「セルフケア」の両方を継続的に行う「予防歯科」の啓発活動、小学生を対象とした「学童歯みがき大会*」や、公益財団法人ライオン歯科衛生研究所(LDH)が推進する母子、学校、高齢者などを対象とした歯科保健活動への支援、従業員が参加して実施する「手洗い・うがい啓発活動」などを中心に取り組んでいます。

*2016年より「全国小学生歯みがき大会」に名称を変更。

環境分野

当社は「洗うこと」を通じて、常に水との深い関わりの中で事業を展開していることから、「水資源保護活動」に重点を置いています。雨水活用の取り組みによる社会への環境意識の啓発、山梨市や小田原市での森林整備活動などがあります。

健康で快適な生活習慣づくりにつながる社会貢献プログラムの充実

● 財団を通じた口腔保健啓発活動

当社は、「企業活動で得た利益を社会に還元する」という創業当時から一貫した理念のもとに、1913年から口腔保健の普及・啓発活動を行ってきました。1964年に厚生省(当時)認可の財団法人ライオン歯科衛生研究所(LDH)を設立し、2010年には内閣府から公益財団法人への移行認定を受け、公益財団法人としてスタートしました。LDHは引き続き、日本歯科医師会、大学、行政などと連携しながら下記の3つの公益事業を通じ、生活者の歯と口の健康を保持増進し、すべての人々の生活の質の向上に結びつけられるよう口腔保健の最前線で社会に貢献しています。当社はその活動を全面的に支援しています。

LDHの3つの公益事業

1. 口腔保健普及啓発事業

すべてのライフステージでの口腔保健の普及啓発活動

2. 調査研究事業

健康寿命の延伸に向けた口腔保健の重要性に関わる調査研究ならびに各事業や活動を通じて得られた研究成果の専門家や生活者への情報発信

3. 教育研修事業

保健指導者や歯科専門家に対する各種セミナーや講演会を開催

【公益財団法人 ライオン歯科衛生研究所】

URL <http://www.lion-dent-health.or.jp/>



「学童歯みがき大会」に参加した小学校

● 学童歯みがき大会

1932年から続いている「学童歯みがき大会」は、小学生を対象に、毎年「歯と口の健康週間」の時期(6月4日～10日)に合わせて開催しています。2015年の第72回大会は、歯科医師会館(東京都千代田区)からのライブ配信により、国内に加え、アジア7カ国・地域からの参加を合わせ、計1,302校、約71,100名の小学生が「健康な歯ぐき」について楽しく学びました。 [関連情報](#) p19

累計 **99万**名

● 2015年のLDHの主な社会貢献活動



母子歯科保健活動

妊婦、乳幼児および園児とその保護者を対象に「歯と口の健康」を通じた子育て支援活動を実施。

実施対象：69カ所、70回

参加者：乳幼児・園児 1,942名、
保護者 1,366名

累計 **114万**名



学校歯科保健活動

児童・生徒や保護者に対する直接的な啓発活動と、保健指導者の活動に対する支援を実施。

実施対象：28カ所、290回

参加者：児童・生徒 16,115名、
保護者 702名、
保健指導者 828名

累計 **2,326万**名



成人(産業)歯科保健活動

就業者を対象に、歯周病の予防と歯と口の健康の保持・増進に重点を置いた指導を実施。

実施事業所：243カ所、497回

受診者：28,326名

累計 **204万**名



高齢者歯科保健活動(2007年～)

いつまでも自分の歯と口で食べることができるよう口腔機能の保持につながる支援を実施。

実施対象：15カ所、24回

参加者：691名

累計 **1万**名



診療活動

リスクコントロール・デンティストリーの考えに基づき、専門性が高く、質の高い診療および予防歯科活動を実施。

受診者：11,691名

累計 **183万**名

累計は財団設立(1964年)からの積算値

【リスクコントロール・デンティストリー】一人ひとりのムシ歯や歯周病のリスクに応じてケアの方法を変えるオーダーメイドの歯科治療。

● 衛生習慣啓発活動

当社は、生活者の皆様の健康・快適な毎日を目指して、『キレイキレイ』ブランドを中心に正しい手洗い習慣の浸透活動に取り組んでいます。

全国の事業所所在地、被災地であり創業者のゆかりの地でもある石巻市、『キレイキレイ』ハンドソープの生産拠点である坂出市などを主な活動地域とし、幼稚園・保育所、公共施設などで手洗い啓発活動を行っています。

2014年、坂出市とハンドソープの生産拠点であるライオンケミカル(株)と連携して「キレイキレイのまち 坂出」プロジェクトを立ち上げ、市民の衛生習慣の浸透・定着を目指して推進しています。

また、当社は「従業員が主体で活動すること」を方針としており、2050年には100%の社員が手洗い啓発活動に参加していることを目標としています。2012年～2015年の間に227名の社員が参加しました(9%)。今後も、清潔習慣・衛生習慣の定着に貢献します。

「キレイキレイのまち 坂出」プロジェクト(手洗い啓発活動)

URL <http://www.lion.co.jp/ja/csr/community/washing>



「アラウータン」手洗い体操

Webサイトのご紹介

地域社会とともに
(コミュニティへの参画および発展)

<http://www.lion.co.jp/ja/csr/community/>

東日本大震災におけるライオンの取り組み

<http://www.lion.co.jp/ja/csr/reconstruction/>



💧 水資源保護活動

当社は「洗うこと」を通じて、常に水と深く関わってきました。水資源保護活動としての森林整備活動、身近な水資源である雨水の活用の推進・啓発などに、積極的に取り組んでいます。

「ライオン山梨の森」森林整備活動

2006年から「ライオン山梨の森」で従業員の環境意識の醸成を目的に、水源である森林の整備活動を行っています。2015年は新入社員研修と森林整備ボランティア(3回)に、のべ188名の社員が参加しました。

参加社員数 累計 **1,096名**(のべ)



「ライオン山梨の森」

URL <http://www.lion.co.jp/ja/csr/social/forest/>

雨活アイデアコンテスト2015の開催

全国の小中学生に、雨水の活用方法を考えることで水の大切さに気付いてもらうことを目的に、2011年から「雨活アイデアコンテスト」を開催しています。個人賞の表彰のほか、優秀な作品を数多く応募していただいた小中学校各1校に学校奨励賞として雨水タンクの贈呈も行っています。

応募作品数 累計 **29,532名**



「ライオン 雨の恵みひろば」

URL <http://www.lion.co.jp/ja/csr/social/rain/>

🏭 工場見学への取り組み

工場見学はお客様と当社を結ぶ大切な接点のひとつと考えています。当社製品に親しみを持っていただき、安全・環境保全を第一とする操業状況をご覧いただくため、毎年多くの方に工場見学に来ていただいています。

2015年度 工場見学の 内訳	工場	千葉	小田原	大阪	明石	合計
見学回数		82	118	54	77	331
見学者数		1,988	2,819	1,531	2,174	8,512



千葉工場の工場見学の様子

第三者所見

トップメッセージにあるように、「事業を通じて社会のお役に立つ」という精神と、人々の「健康・快適・環境」を意識されたCSR経営は、混沌とした世界情勢の中で、様々な問題点を解決へと導きながら、誰もが価値ある未来につながる今日を過ごすために、とても大きな意義があることでしょう。今回のライオンCSR報告書では、オールライオンでの重要課題を特定しながら、海外を含めたグループ全体の活動がさらに見えるように報告されています。

まず、バリューチェーンの各段階での取り組みとともに、昨年設定された2017年中期目標について、国内外含めて実績が開示されており、その該当箇所を明確にすることで、より読者にも伝わりやすい工夫がなされています。また、海外でのCSR活動やハイライトが拡充されており、各地域の担当者の声からも、身近な課題をライオンならではの事業を通じて解決することで、生活者一人ひとりを笑顔にされている姿を垣間見ることが出来ます。

消費者課題についても、「Lidea」や「新CSRコミュニケーションブック」など積極的に生活者とのコミュニケーションを図ろうとする姿勢がうかがえます。「ライオンエコ基準」を満たすエコ商品を拡大しつつ、ハブラシリサイクルの推進など、子供たちや誰でも参加できる場が増えることで、地域での活動もより積極的になり、有意義な活動の輪が広がりを見せています。

さらに、障がい者の活躍推進特例子会社設立や、様々な関係者との連携が必要な、次世代育成支援についても「次世代法第5期行動計画」が策定され、労働慣行をはじめ、従業員の意識の大切さと、それぞれの活躍の場をどのように創出していくかの工夫が随所に見受けられました。有給取得率の目標や女性管理職についても、「2020年には国内での女性マネジメント層比率15%以上を目指す」と開示され、そのための支援施策の強化が報告されています。特に連動しているWEBでは詳細情報や従業員の声やなどが掲載されていますので、読者の方々は本報告書と合わせて訪れてみると理解が深まることでしょう。

「Eco Vision 2020」では、事業で排出される温室効果ガスや水の使用量削減等、一丸となって取り組んだ結果が実績として表れており評価出来ますので、描かれている目標達成のための道筋とともに、より高い目標値の再検討などをされても良いかもしれません。

それから、「予防歯科」と同じように、CSR課題はリスクマネジメントの観点から、人々や企業の事業活動によって環境社会的問題が発生しないよう、実際に起こる前に対策する必要があります。特に海外における複雑なチェーン上の状況把握と報告については、決して容易ではない箇所も想定されますが、持続可能な原材料などのCSR調達とともに、その確認や実践を強化されることが望まれるでしょう。

事業を通じて新しい価値ある必要なサービスを、社会に提供し続ける企業の影響は多大です。人と地球の健康は繋がっており、世界の人々が心身ともに健康であるための「変革を超える変革」に繋がる第一歩として、新たな挑戦でもある直接経営に提案する「Lion Challenge Cup-Innovation」の導入など、従業員の誰もが挑戦できる場が広がっていることは素晴らしいことです。

倫理的消費について議論が活発化している今、製品の企画・開発段階から品質はもとより、エコからエシカル視点での配慮を含めたより広義の意味での安全・安心な商品づくりを通じて、その価値を多角的に高め、消費者へと伝えていくと良いのではないのでしょうか。

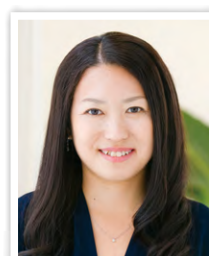
今日一日を生きていくこと、それは実は奇跡に近いかもしれません。そんな毎日に、そっとさりげなく寄り添うライオンの製品によって、私たちの日々の生活が成り立っていることは言うまでもありません。そしてそれらの製品が私たちの手元に届くまでに、直接触れたり出会うことがなくても、実に多くの自然や人々の存在が背景にはあります。

CSRは各ステークホルダーや取りまく環境のみならず、その向こうにある世界に想いを馳せ、事実を知り、行動に移していくことが求められます。毎日を前向きに生きていくことを願うライオンの想いが、「今日を愛する。」人々の輪を広げ、世界を牽引されることを期待しています。

環境専門家
エシカルライフアドバイザー

山口真奈美

株式会社 FEM 代表取締役
環境ビジネス総合研究所 理事長
女性未来農業創造研究会 理事



ライオンから

ライオンのCSRの原点は、「人のため、世のために役立つ仕事」という創業の精神にあります。この精神をDNAとして受け継ぎ、経営ビジョンのもとで事業活動を推進することで、社会の持続的な発展に貢献することを目指しています。その実現のために重要なCSR課題を特定し、経営計画と連動した中期目標に基づいて推進しています。第三者所見で評価していただきましたが、オールライオンでの2017年中期目標に対して、国内外を含めて実績を開示しています。今後も継続して、取り組みを進めます。

企業の事業活動、特に海外のバリューチェーンにおいて、環境や社会への問題が発生しないための状況把握と報告の強化が重要であるとの指摘をいただきました。当社では「2020年までにパーム油誘導体を全量RSPO認証化する」という目標を掲げて推進しています。このような外部の仕組みを活用した対策の強化に加え、現在行っている生産委託先や原材料サプライヤーによるCSR推進のセルフチェックの仕組みを進化させ、サプライヤーに対するCSR活動の働きかけを強めます。

また、エシカル視点での商品づくりとそれを消費者に伝えることが重要との指摘をいただきました。当社では、商品を通じた生活者とのコミュニケーションとして、当社独自の基準

をクリアしたエコ商品のパッケージに環境ロゴと環境配慮の内容を示し、生活者がエコ商品を選択できるようにしています。また、生活者にとって身近な社会・環境課題をわかりやすく示した小冊子の発行など、さまざまな接点を通じて、生活者に関心を高めてもらう取り組みを進めています。今後もライフサイクル全体から社会・環境問題の解決に貢献する商品づくりを進めるとともに、その情報を継続的に生活者へ発信します。

積極的な生活者とのCSRコミュニケーション推進、さまざまな従業員の活躍の場の創出、「Eco Vision 2020」に基づく環境管理の成果など、多くの取り組みについても評価していただきました。一人ひとりの価値ある未来に向けて、健康で快適な暮らしを守る活動を続けるとともに、ステークホルダーの皆様との対話や協働を通じて社会・環境問題の解決への貢献を目指してまいります。

取締役
CSR担当役員

小林 健二郎



編集後記



日本を含むアジアの生活者が生涯にわたり健康で快適に暮らすことができるなど、身近な社会・環境課題の解決に対して、商品や啓発活動、情報提供を通じて貢献することは、ライオングループが果たすべき重要な社会的責任です。その代表的な活動を「2015年のハイライト」

として、国内外での口腔保健啓発活動とハブラシリサイクルプログラムの推進について紹介しました。

当社のCSRサイトや生活情報メディア「Lidea」などの暮らしに役立つ情報についてもご覧いただき、理解をさらに深めていただければ幸いです。



当社はグローバルな社会的責任投資指標であるFTSE4Good Global Indexに選定されています。



今日を愛する。
LION

発行者

ライオン株式会社

発行：2016年6月30日 次回発行予定：2017年6月

お問い合わせ先

ライオン株式会社 CSR推進部

〒130-8644 東京都墨田区本所1-3-7

[ホームページ] <http://www.lion.co.jp/>

[TEL] 03-3621-6611 [FAX] 03-3625-8625

